

令和 2 年度

横浜市立 高等学校
及び
併設型 中学校

自己評価書

横浜市立南高等学校附属中学校

<学校情報>

- 1 課程・学科 併設型中高一貫教育校
- 2 学校長 遠藤 広樹 (令和3年4月1日現在 在職1年目)

3 学校教育目標

- 学びへの飽くなき探究心を持つ人材の育成 《知性》
- 自ら考え、自ら行動する力の育成 《自主自立》
- 未来を切り拓く力の育成 《創造》

4 教育方針

- 国際社会で活躍するリーダーの育成を目指す学校
- 6年間の一貫教育で健全な心身をはぐくむ学校
- 質の高い学習により、高い学力を習得できる学校
- 生徒が互いに切磋琢磨し、常に活気に溢れている学校

5 教職員数 (令和2年12月1日現在)

学校長 1 校長代理 1 副校長 1
教諭 22 (男 12、女 10)
養護教諭 1 事務職員 1
A E T 1 非常勤講師 4
学校司書 1
S C 1 S S W 1

6 生徒在籍数 (令和2年12月1日現在)

年次(学年)	学級数	男子	女子	合計
1	4	71	89	160
2	4	76	84	160
3	4	76	84	160
合計	12	223	257	480

7 回収率

		依頼数	回答数	回収率
教職員		22	22	100%
生徒	1年	160	158	98.8%
	2年	160	151	94.4%
	3年	160	158	98.8%
	合計	480	467	97.3%
保護者		480	426	88.8%

8 自己評価実施日

地域	令和2年11月
生徒	令和2年11月24日～ 令和2年11月30日
保護者	令和2年11月24日～ 令和2年11月30日
教職員	令和2年11月24日～ 令和2年11月30日

9 集計・分析期間

令和2年 11月24日～ 令和3年 2月28日

10 自己評価書の公表方法・時期

- 南高等学校附属中学校ホームページ 令和3年6月～

<自己評価>

1 横浜市立高等学校教育振興プログラムの推進状況

「中高一貫教育校として中高の連携・共同による魅力ある学校づくり」

- 中高一貫教育課程の編成と実施
- 教職員の研修の充実と指導力の向上
- 中高教職員の創意工夫と協力による活気溢れる学校組織の確立と運営

■魅力ある学校づくりの推進状況

(関連アンケート番号：教職員【教育活動】1、2、3 保護者1、2)

取組	<p>① 本校独自の教育課程については、入学前の学校説明会や学年だより、ホームページ等で広く周知徹底を図った。また、各教科だけでなく『EGG(総合的な学習の時間)』を通して、「豊かなコミュニケーション能力」「論理的な思考力」「幅広い教養と社会性」「多様性を尊重する態度」等々を高める活動を時期内容等、工夫して行った。</p> <p>② 学校のグランドデザイン(経営全体構想)をもとに、新教育課程実施に向け、中高の6年間を見通した指導計画を作成した。中高職員がお互いに授業参観及び研究協議を行う研修を実施した。</p> <p>③ 入選、部活動、校内組織で中高一本化を推進した。</p>
成果	<p>① 教職員評価項目1「魅力ある学校づくりに向けて学校全体として取り組んでいる」については95%、保護者評価項目1、2「中高一貫校として特色ある教育活動の取組」「教育課程は充実している」については、ともに全学年95%以上がそう思うと答えている。また、保護者アンケート項目9「学校生活の様子を家庭へ十分かつ適切に伝えている」について90%以上の評価を受けており、本校の特色ある教育活動については、十分に周知され、引き続き高い評価を受けている。</p> <p>② 中高授業研究会では「中高6年間を通じ、重点化して育成を目指す資質・能力を伸ばす授業の研究」について研修し、中高それぞれの職員の授業力向上に役立てることができた。研修会を受けて、中高合同で各教科の指導計画を作成することができた。</p> <p>③ 入選や行事、部活動などで中高協力した取組が進んだ。</p>
課題	<p>① 本校の特色の一つ『EGG(総合的な学習の時間)』については、概ねねらいを達成し、生徒にとって充実した活動になっている。各学年の成長段階に合わせた取組が定着しているが、本年度は中止や変更になった行事や講演会、体験実習が多く、次年度へ向けて計画を練り直す必要がある</p> <p>② 各教科で連携を深め、中高6年間の指導及び評価計画をもとに新学習指導要領を実施し、改善を図ることが必要である。</p> <p>③ 中高お互いが理解を深め、より円滑に業務を進めることが課題である。</p>
改善策	<p>① 中高一貫教育校としての教育課程の内容について、年度当初だけでなく定期的に研修を行い、その役割を担う教員の指導力の向上を図る。EGGの取組として、より興味深い講座やテーマの見直しを引き続き行っていく。</p> <p>② 年度当初の学校経営アドバイザーによる研修はもとより、中高6年間の一貫した教育のための授業力向上を図る研修を計画する。中高6年間の指導及び評価計画の実践のため、中高職員の検討会をもつ。</p> <p>③ HPだけでなく、様々な方法でより学校と家庭の連携を強めていく。</p>

2 教育活動の状況

■教科指導の状況

(関連アンケート番号：教職員【教育活動】4、5、6生徒 授業評価 保護者2)

取組	<p>① 4月、5月の休校による授業時数の不足に対応するため、各教科等において指導事項を精選するなど、年間指導計画の見直しを行った。また、感染防止対策と、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現の両立を図るため、新たな授業形態を模索するなど、授業改善に取り組んだ。</p> <p>② 11月に実施した中高合同の授業研究会では、中高の各教科会において作成した「各教科のグランドデザイン」をもとに、生徒の実態や目指す生徒の姿などについて話し合い、6年間で身に付けさせたい資質・能力の共有を図りながら、研究授業と研究協議を行った。</p> <p>③ 「EGG（総合的な学習の時間）」については、校外での活動をともなうプログラムなど、例年通りの実施が困難なものも多かったが、1年生の「プロジェクトあしがらアドベンチャー」や「構成的グループエンカウンター研修」などのいくつかのプログラムは、計画を変更して実施することができた。また、令和元年度の課題・改善策として挙げられていたカリキュラムの見直しについては、学習指導部を中心に検討を重ね、おもに1年生と2年生の「EGGゼミ」のカリキュラムを一部変更して実施した。</p>
成果	<p>① 年間指導計画の見直しや、長期休業の短縮等による授業時数の確保により、授業進捗の状況を例年並みの水準に回復することができた。また、言語活動や観察・実験等を行う際の授業形態を工夫することにより、各教科等において、生徒の主体的・対話的で深い学びを促すことができた。</p> <p>② 中高合同の授業研究会において、6年間で身に付けさせたい資質・能力の育成について話し合い、実践する機会をもったことにより、6年間を見通した指導の方向性がより明確になり、教科のチーム力の向上につながった。</p> <p>③ 1年生の「プロジェクトあしがらアドベンチャー」や「構成的グループエンカウンター研修」などのプログラムが実施できたことは、人間関係の構築やコミュニケーション力の向上のために大変有意義であった。また、「EGGゼミ」のカリキュラムの一部変更については、ねらいや目指す生徒の姿などを踏まえ、学習指導部と当該学年が連携して学習内容を立案し、実施することができた。</p>
課題	<p>① 令和3年度、新学習指導要領の全面実施にあたっては、特に学習評価の在り方について教員一人ひとりが理解を深め、各教科等や学校全体で共通理解を図りながら、指導と評価の一体化を進めていくことが必要である。</p>
改善策	<p>① 学習評価に関する資料（『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』など）を活用し、新学習指導要領における学習評価の在り方について、教科主任会や各教科会等で改めて共通理解を図る。併せて、日々の授業や教育課程説明会等において、年間指導計画や単元ごとの指導計画を生徒・保護者に示し、学習評価の目的や方法等についての理解が十分に得られるようにする。</p>

□生徒会活動・学級指導の状況

(関連アンケート番号：教職員【教育活動】7、8 生徒2 保護者4)

取組	<p>① 「附属中学校の生徒会活動の方針」に則って、全職員で学校行事や委員会活動、学級活動の指導にあたった。</p> <p>② 生徒会本部および生徒会企画委員会から「中学生の主体的な活動」を目指す発信をし、種々の取組を実施した。</p> <p>③ 中高連携の生徒会活動のスリム化と充実を図るため、中高の生徒会本部役員による定例会を実施した。</p>
成果	<p>① 各委員会および生徒会本部の活動において、生徒主体で年間活動計画や予算を立てて活動し、日々の活動や行事の企画・運営を行うことで、「中学生としての活動」が充実している。</p> <p>② 生徒会企画で3学年間の生徒の交流会を行うことができた。各学級と生徒会企画委員会での検討を重ねることで、生徒自身が自分たちの手で話し合いながら物事を決定し、運営していくことを学ぶことができた。</p> <p>③ 中高の生徒会本部役員による定例会によって、中高の役員同士の関係が深まり、委員会の活動状況の共有や合同生徒会企画の考案をすることができた。</p>
課題	<p>① 生徒集団のリーダーシップやフォロワーシップの育成は、学級や学年、全校など多角的な視点から行われていくことを全職員が共通認識として持ち続けていく必要がある。</p> <p>② 生徒評価項目2「生徒会活動や委員会活動を主体的に行っている」の数値から、評価項目の意図を生徒がきちんと理解できていないことが課題であると考えられる。「生徒会活動」には学校行事や学級係活動なども含まれることを生徒一人ひとりが理解できるよう、多方面から働きかけていく必要がある。</p> <p>③ 中高合同で活動する学校行事や生徒会活動のスリム化と充実が課題である。</p>
改善策	<p>① 学級係活動は「一人一役」を前提に、単なるルーティン化や形骸化しないように、年度途中で学級や学年で係活動の振り返りを設定し、生徒自身による活動の充実や創意工夫をうながすなど一層の活発化を目指していく。</p> <p>② 学校行事、学級係活動、委員会活動など具体的な場面や振り返りの中で、生徒の活動を具体的にほめながら、「主体的な生徒会活動」に気づかせていく。</p> <p>③ 中高合同で活動する学校行事や生徒会活動のスリム化と充実に向けて、新高1と新中3が連絡を取りつつ委員会活動を引き継げるよう、中高合同生徒会企画委員会を設定する。また、高2が中高の学校全体に関わる運営を行う一方で、高1と中3がそれぞれの学校の窓口となることを自覚させ、連携のとれた円滑な中高合同の活動となるよう継続して支援していく。</p>

□生徒指導の状況

(関連アンケート番号：教職員【教育活動】9 生徒3、4 保護者3、5)

取組	<p>① 生活委員会において、委員長を中心に生徒が主体となって議事進行、企画運営を行った。今年度は感染予防のため、学年集会や新入生オリエンテーションの実施ができなかったため、学校生活・防犯・安全等について掲示物や各教室で生活委員から生徒全体に呼びかけを行った。</p> <p>② 養護教諭やSCを交えた生徒指導情報交換会や管理職を交えたいじめ防止対策委員会を月1回以上行い、情報交換と指導方針の確認をした。令和2年度は、SSWにきていただき、SCと2本柱の体制で生徒のサポートを考えていくことができた。</p>
成果	<p>① 港南区の防犯サミットに参加し、感染予防のため集会はなかったが、「インターネットによる影響」について調査・研究し、報告書を提出した。また、防犯サミットといじめ防止についての発表を生活委員会の担当で検討し、各クラスで発表することで、自分事としてとらえることができた。</p> <p>② 職員反省アンケートで生徒指導の取組がきちんとされているという項目が「十分に」と「おおむね」で96%だった。生徒理解と情報交換に基づいて、生徒指導ができた。</p>
課題	<p>① 令和2年度も、地域の方から登下校時のマナーに関して、ご意見をいただくことがあった。しかし地域のアンケートの自由記述の中には、「広がらずに歩き、道を譲っていた」「マナーがしっかりしていて落ち着いている」などの意見もいただくこともできた。日頃からの生徒への呼びかけが成果として出てきているので今後も続けていく必要がある。</p> <p>② 生徒反省アンケートの、「先生は生徒の不安や悩み事などについて親身になって相談にのっている」という項目で1年生が91.0%、2年生が91.6%、3年生が93.2%という結果で、昨年度に比べて高い評価を得ることができた。教育相談を中心に来年度も生徒に寄り添った指導を目指していきたい。</p> <p>③ 新型コロナウイルスの影響で、今年度は学校生活における過ごし方について対応を考える場面が多くあったので、来年度へむけて引き継ぐべき点を今後整理していく必要がある。</p>
改善策	<p>① 新入生が入学してから早い段階で登下校のルールやマナーについて、学級活動の時間や学年集会などで説明をする。生活委員が中心となって新入生オリエンテーションで生徒主体の発信をする。</p> <p>② 現在においても新型コロナウイルスに対しての不安やストレスがあると考えられるので、定期的な教育相談を行うことに加えて、日頃から生徒に寄り添った指導を職員一同で心掛けていく。</p> <p>③ 各学年の生徒指導係を中心に、部会などで確認をしていきながら学校全体で生徒指導に取り組む体制の深化を進めていく。月に1回あるいじめ防止対策委員会、特別支援教育委員会を中心に情報共有を図り、3学年の生徒指導係が連携して、生徒指導にあたっていく。</p>

□保健指導・環境美化の状況

(関連アンケート番号：教職員【教育活動】10、11生徒5、6 保護者6、7)

取組	<p>① 新型コロナ感染防止のため、横浜市のガイドラインに従って学校内の消毒の徹底に力を入れた。また毎日の検温と健康観察、手洗い、消毒、マスクの着用等、感染防止の意識向上に力を入れた。</p> <p>② 生徒の保健美化委員会の活動において、学校保健委員会のテーマを「新型コロナウイルス対策について考えよう」と設定した。生徒たち自ら課題を見つけ、それぞれ自分が取り組みたい課題に対して、1～3年生合同のグループに分かれて取り組み、学校保健委員会の場で発表させた。またその内容を各学年の学活で、クラスの保健美化委員が中心となって再度発表することで、全校生徒に共有した。</p> <p>③ 新型コロナ感染防止のため、ゴミの持ち帰りを徹底するために高校と連携し、毎日ゴミ袋を持参させた。また、教室のゴミ箱を撤去して各階に掃除のゴミ専用のゴミ箱を設置した。</p>
成果	<p>① 横浜市のガイドラインに従って、全職員で学校内の消毒を適切に行うことができた。また毎日の検温と健康観察、手洗い、消毒、マスクの着用等、生徒の感染防止に対する意識は高く、概ね実施できている。</p> <p>② 保健美化委員会の生徒の、学校保健委員会に向けた取り組みは、グループごとに協力し素晴らしい発表を行った。また生徒たちの達成感も大きく、新型コロナに対して改めて意識する機会となった。また学校保健委員会に参加した人のみではなく、全校生徒へも内容を共有することができた。</p> <p>③ 各自でゴミ袋を準備し、自分で出したゴミは持ち帰るという習慣が身についたことで、校内のゴミの量が大幅に減少した。</p>
課題	<p>① 日を追うごとに生徒の3密に対する意識が薄れ、友達と近距離で触れ合ったり、食事の時間にマスクを外した状態で大声で談笑したりという場面が増えていった。今一度、感染防止を重視しながら学校生活を過ごすことを意識させる必要がある。</p> <p>② 令和2年度は、専門の講師を招いての薬物乱用防止教室や食育講演会等の保健指導を行うことができなかった。また、学校保健委員会においても保護者や外部の講師を招くことができなかった。より質の高い保健指導を検討する必要がある。</p> <p>③ 各階に設置したゴミ箱内の、ゴミの分別ができていないことが何度かあったため、今後は意識を改善させる必要がある。</p>
改善策	<p>① 社会の動向に合わせて、改めて感染防止を意識させるためにも、担任や委員会生徒等がこまめに声がけを行ったり、その他職員も様々な場面において、適切な対応と啓発を行うようにする。また、家庭との連携がはかれるよう、お便り等で学校での取り組みの様子や啓発内容等を発信する。</p> <p>② 新型コロナ感染防止を考慮しつつ、必要な保健指導が適切に行えるよう、指導の形態、内容等を検討する。また家庭と協力して生徒の健康管理・維持ができるよう、保健指導の内容や生徒の様子などを保健だより等を通して発信する。</p> <p>③ 中高で連携し、ゴミ箱の表示の工夫や、生徒の委員会活動を通して呼びかけを行うなど対応を工夫する。</p>

3 学校経営の状況

■学校教育目標、経営方針の推進状況

(関連アンケート番号：教職員【学校経営】12、13 生徒7保護者1、2、4)

取組	<p>① 生徒（児童）・保護者に対して、本校開設の経緯や学校教育目標、学校経営の方針について、学校説明会や保護者会、学校だより、8月の教育課程説明会等を通して説明を行った。生徒に対して学校教育目標をわかりやすく理解させるために、全学年でその解釈を話し合い、理解を深め、内容を工夫して掲示・発表する活動を続けている。</p> <p>中高接続の取組として、3年生を対象に生徒・保護者合同の南高校進学説明会を実施し、内進者へ高校教育についての周知を図った。卒業生の講演会や、高校の保護者対象の高大接続の講演会への中学の保護者の参加などを計画したが、コロナ感染防止のため実施できず、資料のみの配布となった。</p> <p>② 「豊かな人間性の育成」を目指し、各学年の発達段階に応じて重点項目を決め、道徳や『EGG』、特別活動等で指導した。企画会において、各学年の取組を確認し、3年間のつながりを図った。</p>
成果	<p>① 保護者アンケートでは、学校行事以外のすべての項目において90%以上の評価を受けており、本校の教育活動に一定の理解を得ることができた。</p> <p>生徒アンケート項目7「南高附属中の生徒であることを誇りに思っている」については、3学年共に90%以上の生徒がそう思うと答えており、本校の理念を理解し、前向きに活動に取り組んでいる生徒の姿が表れている。</p> <p>② 教職員評価項目12「学校教育目標の実現に向け、全職員が取り組んでいる」については95%という結果がでた。本校がすべての教育活動において、目標に向けて組織的に取り組んでいるということである。</p>
課題	<p>① 一部の保護者から、より細かく情報を発信してほしいという要望やカリキュラムについての疑問等が寄せられた。</p> <p>② 教職員評価項目13「学校経営方針に基づき、教職員が協力して円滑な学校経営がなされている」については95.5%であった。昨年度91.7%から上がったが、項目12とも100%ではなかった。</p>
改善策	<p>① 今後も3年生とその保護者を対象に行われている高校進学説明会を南高校への進学意思決定の時期を考慮し、高校の進路指導部と連携して、9～10月に実施していく。日常の教育活動や評価を含めた教育課程について、説明会という場だけでなく、様々な方法で発信し周知を図る。</p> <p>② 年度当初に学校経営方針を全職員で確認する研修会を位置づける。機会があるごとに中高一貫教育校の開校にあたっての理念や、それに基づく特色ある教育内容についての共通理解を図る。さらに、これまでの取組を踏襲していく部分と今の時代に合った新しい取組を融合させ、本校の再ブランド化を図る。</p>

□職員組織・学年経営の状況

(関連アンケート番号：教職員【学校経営】14、15、16)

取組	<p>① 定例の学年会、部会（教務・総務・生徒指導・学習指導）、企画会、職員会議を計画的に設定し、議題調整と学年間の情報を事前に共有するようにした。中学職員会議はペーパーレスで行うようになった。次年度の中高統一の校内組織実施を考え、業務の組織対応を進めた。</p> <p>② 企画会を議題調整会議としてだけでなく、管理職と主幹教諭が協働して、学校運営に関わる内容を検討する会議とした。人事決定についても、学年経営が円滑に進むように、積極的に学年主任の意見を取り入れた。</p>
成果	<p>① 教職員評価項目 15「各学年の運営は、情報が共有され組織的取組が円滑に行われている」が、100%という高い評価となった。学年主任がより広い視野で学年運営を行っていることがうかがわれる。</p> <p>② 部会の議題をネットワーク上で事前に共有し、PC画面で会議ができるので、当日の職員会議を効率的に行うことができた。他の会議については「効率よく運営されている」が、前年の 58.3%よりかなり改善し 86.4%であった。</p>
課題	<p>①② 改善はみられるが、教職員評価項目 16「会議が効率的に運営され、教育活動や学校運営の計画等共通理解が図られる場になっている」が 86.4%、教職員評価項目 14「一人ひとりの教職員が意欲をもって業務に取り組むことができる組織である」が 90.9%となっている。</p>
改善策	<p>①② ペーパーレスだけに PC を利用するのではなく、オンライン会議の導入など、より会議の効率化を図り、職員の負担感を軽減する努力を続ける。</p> <p>次年度は、中高で統一した校内組織が運用されるので、さらに改善が進むように取り組みたい。大きく変化する組織に戸惑わないように、企画会を利用し、情報共有をより一層強化する。中高連携に関する業務の軽減を図る。働き方改革の視点から、教育活動の質を維持しつつ内容を精選し、より教育効果の上がる取組を検討する。</p>

■職員研修・研究の状況

(関連アンケート番号：教職員【学校経営】17)

取組	<p>① 校内における授業力向上研修を中高全職員で行った。職員一人ひとりの日々の授業改善に向けた意識の向上を図ると共に、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた取り組みを各教員及び各教科で行った。また、研修後に教科ごとに分科会をもつことで、6年間を見据えた教科としてのグランドデザインを話し合うことができた。</p> <p>② 学校経営アドバイザーの高木先生を講師とした中学校内研修は1回実施することができた。</p>
成果	<p>① 授業力向上研修の授業者だけでなく、多くの職員が研究授業に関わることで、自身の授業の在り方について考え、授業改善に取り組むことができた。</p> <p>② 教育課程委員会から独立し、中高研究推進委員会として企画・準備を進めたことで、円滑に当日の運営を行うことができた。</p> <p>③ 学校経営アドバイザーによる個別指導を通して、一人ひとりが、より良い授業づくりの方向性について考えることができた。また、10月に高木先生よりアドバイスをいただき新教育課程の情報の共有化を図ると共に、今後の学習活動の方向性などについて改めて考えることができた。</p>
課題	<p>① 各職員の日々の授業改善に向けた意識をさらに向上させ、継続的な授業力向上に向けた取り組みを進めていかなければならない。</p> <p>② 現在の状況等を考慮にいれながら、研修会の時期や持ち方について、中高研究推進委員会で検討を重ねていく必要がある。</p> <p>③ 今年度は講師による授業研究会の実施回数が例年より少なく、講師との連携を深めることが難しかった。来年度の日程を決め、授業力の向上に向けた取り組みをさらに活性化させていく。</p>
改善策	<p>① 次年度も引き続き、校内における研究授業等を行うことで、各職員の授業力向上に向けた取り組みを進めていく。</p> <p>② 研究推進委員会の活動をより活性化させ、全職員が負担なく、日常的に研修を進めていくことができる環境づくりを進めていく。</p> <p>③ 公開授業研究会のより良い在り方について、中高で検討を重ねていく。</p>

□学校経理、施設設備および情報の管理状況

(関連アンケート番号：教職員【学校経営】18、19、20、21 生徒 8、9 保護者 7、8)

取組	<ul style="list-style-type: none"> ① 配当予算を管理職及び各教科・担当と連携したうえで編成をし、特にコロナ対策を重点とし教育環境の整備を行った。 ② 公金及び準公金の透明性確保のため、保護者や市民に対して積極的に情報公開を行った。 ③ 教育委員会の通知等に従い、情報担当及び管理職と情報を共有し、個人情報の保護を適切に行った。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ① 自動水栓への交換、消毒液の購入及び教科備品の更新を行うなどの要望に応え、95%以上の評価を得ている。 ② 公金においては本校ホームページ上及び学年だよりにて、準公金においては会計報告書において通知を行い、その結果 95%以上の評価を得ている。 ③ 教育委員会の指示通りに管理を行い、95%以上の評価を得ている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ① 今後は、コロナ対策に予算を配分しつつ、物品の整備を管理職及び教科担当と協議し実行する必要がある。 ② ホームページ及び学年だより等での報告であるため、限られた内容となっており、より分かりやすい情報発信が必要である。 ③ 情報セキュリティ対策に万全ということではなく、常に情報を更新していく必要がある。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ① 予算委員会時だけでなく随時各担当と協議を行い、感染症対策及び教育効果のある物品の整備をしていく。 ② ホームページ及び学年だよりにての報告の際、執行内容の具体例を数多く入れる等わかりやすい説明を行う。 ③ 最新の情報を職員に対して迅速に知らせていくだけでなく、個人情報保護の重要性を周知していく。

□保護者・地域との連携協力の状況

(関連アンケート番号：教職員【学校経営】22、23)

取組	<p>① 中高一貫教育校として高校と一体の組織で、PTA活動を行っている。例年は中学校のPTA独自の活動として、PTA中学校懇話会を開催し、情報交換をしていたが、今年度は中止した。</p> <p>② 今年度は、PTA主催の研修懇親バス旅行の中止、体育祭や文化祭・合唱コンクール等の行事・EGG等の発表会で保護者の参観を呼びかけすることをやめた。</p> <p>③ ホームページや学年だより等で、学校の教育活動の情報提供を行い、保護者、地域等との連携協力を図っている。</p>
成果	<p>① 感染拡大防止のため、PTAとしての活動を行うことはできなかった反面、今まで様々な場面でご協力いただいていたことを再認識することができた。</p> <p>② 必要なこととなくともよいことの再検討をするきっかけとなったと前向きにとらえることができた。</p> <p>③ 保護者アンケート質問項目9で、「そう思う」「ややそう思う」が93%との評価を得ることができた。</p>
課題	<p>① 通学区域が広く、地域との関係が希薄になっている部分がある。</p> <p>② 登下校のマナー等に関して、地域の方からご意見をいただくことがある。</p> <p>③ 感染拡大防止のため、対面で集まることができず、情報発信の機会が限定されてしまう。</p>
改善策	<p>① 保護者のみならず、卒業生や地域の方々との連携協力を目指す。</p> <p>② 登下校に関して、職員による登下校指導を継続する。また、バスや電車内のマナーなどについて、保護者の方の協力もいただけるように新入生保護者説明会などで説明をする。生徒に対しては、新入生に向けた推奨ルートの確認を4月に行い、学級や集会で指導する。</p> <p>③ 学校ホームページ（「附属中日記」）や学校便りなどを活用し、学校の取組や生徒の様子を発信する。</p>

□危機管理の状況

(関連アンケート番号：教職員【学校経営】24、25生徒10)

取組	<p>① 6月に映像による避難経路確認、9月に中学のみで防災訓練を行うなど、コロナ禍でもできる限りの避難経路・方法の周知に努めた。</p> <p>② 避難経路の階段表示を各学級の教室に掲示、周知をした。</p>
成果	<p>①②(職員)項目25「学校防災計画に沿って、緊急避難場所や避難経路・避難方法等の周知徹底がなされている」について「十分に・おおむね達成された」と回答した職員の割合が70%目標を達成したのは、4月の帰宅経路確認および9月の防災訓練の成果と言える。</p> <p>①②(生徒)項目10「自分は災害時の避難経路を把握している」について「そう思う・ややそう思う」と回答した生徒の割合が全ての学年において70%目標を上回った。</p>
課題	<p>①生徒項目10「自分は災害時の避難経路を把握している」について昨年度同様「そう思う・ややそう思う」と回答した1・2年生の割合が、3年生と比べると低めであった。</p> <p>②コロナ禍で初めての試みが多くあったことに加え災害発生時の対応について曖昧な部分があったため、職員間で認識のずれが生じる部分があった。</p>
改善策	<p>①訓練以外にも生徒が定期的に避難経路・方法を確認する機会を設ける(学活、道徳など)</p> <p>②年度当初に全職員が本校の学校防災計画(特に災害時の避難経路・方法)を確認する機会を設ける。</p>

□学校に関する情報公開の状況

(関連アンケート番号：教職員26 生徒11 保護者9)

<p>取組</p>	<p>① 今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、例年実施している「学校説明会」「南高祭の一般公開」「授業公開」などが中止となり、広報活動の範囲が限定される状況であったが、そうした中でも、「学校 YouTube チャンネル」を活用し、学校ホームページにおいて学校説明会や志願説明会の動画を配信したり、保護者に向けて教育課程説明会の動画を配信したりするなど、情報通信技術を活用した情報公開を積極的に行った。</p> <p>② 学校ホームページでは、全職員で日々の授業風景や学校生活の様子を紹介していく「附属中日記」を定期的に更新した。また、入学関係情報を適時発信し、本校の受検を考えている児童、保護者に向けても幅広く広報活動を行った。学年だよりでは、学校ホームページの「附属中日記」と記事のすみわけを行い、学校・学年行事や EGG 学習の様子などを生徒の声とともに掲載し、各家庭や地域に配布した。</p> <p>③ 個人情報の取り扱いについては、年度初めに保護者へ文書を配布して運用のしかたを周知するとともに、学校ホームページに個人が特定される情報を公開しないなど、適切に管理した。</p> <p>④ 学校運営協議会における学校評価や生徒、保護者学校評価の結果を公開し、開かれた学校づくりに努めた。</p>
<p>成果</p>	<p>① 学校説明会の配信動画は 5400 回以上再生され（令和 3 年 1 月現在）、多くの方々に本校の取り組みや教育活動の成果を知っていただくことができた。また、情報通信技術の活用など、情報公開や広報活動の今後の在り方について模索する良い機会となった。</p> <p>② 学校評価の「ホームページや各種たより等での情報公開」の項目において、生徒、保護者ともに 90% 以上の評価を得た。学年だよりでは登下校のマナーなど、地域からの連絡に対応した 3 学年共通紙面をつくり、地域における附属中学校の課題およびその取り組みを、各家庭や諸機関に伝えることができた。</p> <p>③ 個人情報の適切な管理に努め、職員学校評価における「情報管理」の項目で 95% 以上の評価を得た。</p>
<p>課題</p>	<p>○現在、GIGA スクール構想による一人一台の端末の整備や「ロイロノートスクールの活用など、学校と家庭との「双方向」の情報通信を行うための環境整備が急ピッチで進められている。日々の多忙な業務の中で、こうした状況の変化に、学校全体としていかに素早く適応していくことができるかが喫緊の課題である。</p>
<p>改善策</p>	<p>○各校務分掌において、アカウントの管理や端末の整備を分担して行うとともに、校内担当者が ICT 活用研修に積極的に参加し、そこで学んだことをもとに校内研修を行うなど、組織的に対応していく。</p>

4 いじめへの対応に関する項目

□いじめへの対応

(関連アンケート番号：教職員 27 生徒 3、4 保護者 3)

取組	<p>①職員によるいじめ防止対策委員会を月1回開催し、各学年の生徒情報共有や、学校いじめ防止基本方針の改訂について話し合った。</p> <p>②いじめに関するアンケートを12月に横浜市の統一書式により無記名で実施した。新型コロナウイルスに関係した生活アンケートを6月と10月に実施した。7月と11月に記名式のアンケート（QU）を行った。</p> <p>③生徒の環境の変化や長期休業明け、新型コロナウイルス感染拡大防止のための休校明けを考慮して、全クラス担任による教育相談を実施した。より安心して充実した学校生活に向け、校長代理による相談を11月から12月にかけて1年生を対象として行った。</p> <p>④学級活動や道徳、総合的な学習の時間でコミュニケーション力を高め、安心して生活できる環境づくりをおこなった。</p> <p>⑤生活委員会の生徒がいじめ防止の取り組みを行った。</p>
成果	<p>①いじめ防止基本法の定義に基づき、いじめはどこにでも起こりうるということの共通認識のもと、職員による情報収集ができた。いじめ防止対策委員会がいじめに関する情報を共有し、チームとして対応することができた。</p> <p>②各種アンケートの結果から客観的なデータと普段の先生方の見取りとを合わせて、生徒理解を深めることができた。</p> <p>③教育相談により、生徒と担任の関係を築くことができ、何か困ったことがあったときに相談できる体制を作り、安心して相談できるようにした。</p> <p>④グループワークトレーニングにより、仲間と協力して課題解決する姿勢ができた。</p> <p>⑤生活委員会の生徒がいじめについて発表することで「自分事」としてとらえ、生徒自らがいじめ防止に取り組む意識を育むことができた。</p>
課題	<p>①今年度、3件のいじめ認知をした。困っている生徒がいらないか丁寧に見取り、認知できる件数を増やすことと、いじめが発生しないよう件数を減らすことが相反する課題である。</p> <p>②職員のアンケートに、教育相談の充実が挙げられていた。授業時数との兼ね合いもあるが、年度初め、長期休業明けに教育相談を設定するか検討する必要がある。</p>
改善策	<p>①休み時間など生徒と接する時間を多くもち、生徒の様子を見取り、困り感のある生徒を発見し、積極的ないじめ認知を行い、職員で共有して指導にあたる。</p> <p>②教務と相談し、教育相談の時間確保の検討を行う。</p> <p>③普段の授業で行っているグループワークや道徳、『EGG』などがコミュニケーション力の育成につながり、いじめの未然防止につながることを職員が今一度意識し、授業・取り組みのねらいを伝え生徒にも意識付けを行う。</p>

令和2年度

横浜市立高等学校
及び
併設型中学校

自己評価書資料
学校評価アンケート集計表

各教科授業評価
生徒アンケート
保護者アンケート
地域アンケート
職員アンケート

横浜市立南高等学校附属中学校

令和2年度生徒授業評価 中1国語 南高校附属中学校

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について 授業や先生について	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	84	59	11	3	157	91.1%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	104	43	6	3	156	94.2%
3		授業で学習した内容は、だいたい理解でき、また身に付いている。	118	37		1	156	99.4%
4		授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	124	29	2	1	156	98.1%
5		生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	139	16		2	157	98.7%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	140	16		1	157	99.4%
7		発問や説明は適切である。	142	13	1	1	157	98.7%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	137	19		1	157	99.4%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	136	19	1	1	157	98.7%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	135	20	1	1	157	98.7%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

- ・中学校の1年目として、附属中学校の学習形態が定着できるように、ガイダンスを丁寧に行った。
特に家庭学習の習慣作りとして、チャレンジ新聞、チャレンジ漢字の課題提示を継続的に行った。
- ・来年度から始まる新教育課程に向けて、学習単元表の構成を改訂した。
- ・コロナ感染防止に伴い、学習単元の精選をおこない、予防対策の環境下での学習活動を展開した。

(b) 成果

- ・今年度設定した目標は、おおむ達成していると考えられる。
- ・項目5、6より、改訂版学習単元目標は有効だったと考えられる。
- ・項目1より、チャレンジ漢字、チャレンジ新聞の学習が習慣になりつつあると考えられる。

(c) 課題

- ・コロナ感染防止により、四領域のうちの「話す」が小場面のものに限られている。
来年度はこの現状からスタートして、大きな場面での「話す力」育成を計画していく必要がある。
- ・長期欠席や附属中学校の学習スタイルになじまない生徒たちの、学習に関する関心意欲項目の評価について考えていきたい。

(d) 改善策

- ・今年度の学習状況(特に話す力)を引き継いだ、学習計画の作成をする。
- ・学年および教科内および学年内で、学習に関する関心意欲項目の評価について検討する。

令和2年度生徒授業評価 中1社会 南高校附属中学校

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	69	66	18	4	157	86.0%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	92	50	11	4	157	90.4%
3		授業で学習した内容は、だいたい理解でき、また身に付いている。	96	53	6	2	157	94.9%
4	授業や先生について	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	113	37	5	2	157	95.5%
5		生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	136	19	1	1	157	98.7%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	139	17		1	157	99.4%
7		発問や説明は適切である。	135	19	2	1	157	98.1%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	131	23	2	1	157	98.1%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	136	19		2	157	98.7%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	128	22		1	151	99.3%

<授業評価を受けて>

<p>(a) 取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 単元ごとに「学びのプラン」を作成し、見直しをもって学習できるようにした。 ② 単元ごとに教科書の内容で一問一答形式で取り組む「予習プリント」を作成した。 ③ 授業の主発問を整理し、課題解決的な学習を心掛けた。 <p>(b) 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 単元の課題を意識して学習し、単元の内容を振り返ることができた。 ② 事前に教科書に触れることで、生徒が授業の内容にスムーズに入ることができた。 ③ 質問7の項目で、98.1%という数値を得ることができた。 <p>(c) 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 年間計画と具体を示す「学びのプラン」にずれが生じた部分があった。 ② 質問1の項目で「そう思う」が69人とどまうなど、数値が改善されなかった。 ③ 地理的分野の授業と歴史的分野の授業で、発問と展開が異なってしまった。 <p>(d) 改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 新教育課程と今年度の「学びのプラン」を照合し、年間計画の修正を行う。 ② 再度「予習プリント」の意義と復習の仕方について生徒に説明する。 ③ 歴史的分野での主体的な深い学びの追究を教科として次年度の研究課題としたい。
--

令和2年度生徒授業評価 中1数学 南高校附属中学校

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	50	81	23	4	158	82.9%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	79	65	13	1	158	91.1%
3		授業で学習した内容は、だいたい理解でき、また身に付いている。	79	69	9	1	158	93.7%
4	授業や先生について	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	134	22		2	158	98.7%
5		生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	129	26	2	1	158	98.1%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	130	24	2	2	158	97.5%
7		発問や説明は適切である。	128	26	2	2	158	97.5%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	123	29	5	1	158	96.2%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	107	43	5	3	158	94.9%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	122	25	4	1	152	96.7%

<授業評価を受けて>

(a)取り組み

- ①体系数学を教材とし、発展的な内容を扱った授業を行う。
- ②完成ノートのチェックシートを配布し、日々チェックを行う。また、計画的に学習を進めるように指導する。
- ③定期テスト、基礎力診断テストの振り返りを毎回、その方法も含めて指導し、評価する。
特に、定期テスト、基礎力診断テストの直しについては、しっかり丁寧に行った。
- ④基礎力診断テストの得点が8割に満たない生徒に対して、補習、課題の提出と再試験を実施する。
- ⑤自己評価カードを記入させ、生徒の理解度や疑問を把握するよう努めている。
- ⑥授業内での「問い」の設定を大切に、生徒の「なぜ？」をもたせるように授業を展開した。
- ⑦生徒どうしの対話の中で問題を解決し、理解できるように声掛けを行った。

(b)成果

- ①生徒の理解度を見ながら進めたため、大半の生徒は内容を理解できている。
- ②日々生徒の完成ノートの進捗状況を確認することができ、学力の向上につながった。
- ③個別に対応できるため、生徒の理解度や意欲の向上につながっている。また、次のテストに向けての取り組み方を考える良い機会になっている。
- ④基礎的な力の定着につながった。
- ⑤自己評価カードの内容をもとに、生徒の疑問を把握、共有することも行えた。
- ⑥誰もが「なぜ？」をもてる「問い」の設定を行ったことで、数学の特異な生徒もそうでない生徒もともに議論し練り上げながら授業づくりができた。
- ⑦質問3で93.7%という結果を得られた。

(c)課題

- ・質問1で、「そう思う」が50人ととどまってしまった。
- ・正確な計算力にやや課題を抱える生徒がみられること。

(d)改善策

- ・復習の仕方や内容に対する指導を重点的に行う。(生徒の発見を大切にすため、予習ではなく復習に重点を置いて指導する)
- ・定期的に基礎的な計算練習を行わせることで、改善を図る。

令和2年度生徒授業評価 中1理科 南高校附属中学校

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	77	72	9	2	160	93.1%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	92	58	9	1	160	93.8%
3		授業で学習した内容は、だいたい理解でき、また身に付いている。	96	60	4		160	97.5%
4	授業や先生について	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	127	33			160	100.0%
5		生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	134	22	3	1	160	97.5%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	145	14	1		160	99.4%
7		発問や説明は適切である。	141	19			160	100.0%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	138	22			160	100.0%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	124	33	3		160	98.1%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	142	18			160	100.0%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

①授業内容と日常生活の関わりを考えたり、学んだことをさらに詳しく調べたりする課題を設けた。
 ②単元ごとに時間数の見直しをもって授業計画を立て、授業を行った。
 ③休校期間中に地学分野・生物分野の知識を身に付けるための課題を出した。休校明けの授業では、その知識をもとに思考する問いを出し、知識の復習とともに思考力の向上を図った。

(b) 成果

①課題によって、家庭学習に取り組み、復習をする生徒の割合が高くなった。
 ②休校期間の遅れを心配せず授業を進めることができた。やや駆け足になったが、無事に年度内に1学年の学習内容を終えることができた。
 ③問いの答えを考えさせることで、生徒が主体的・積極的に学習に取り組んだ。

(c) 課題

・令和2年度は学校再開後に再び休校になっても困らないように、知識の習得に重きを置いたため、物理分野、化学分野では地学分野、生物分野とは異なる授業の進め方となり、思考させる場面が少なくなってしまった。
 ・令和2年度は新型コロナウイルス感染予防のため、実験をする機会が少なかった。この状況下でも、実験ができる方法を探る必要がある。

(d) 改善策

・授業の中で思考の場面をつくれるように意識して授業の計画を立てる。
 ・消毒の徹底や、道具の数を増やして共有する場面を減らすことなどで、生徒自身が実験に取り組める環境をつくる。

令和2年度生徒授業評価 中1音楽 南高校附属中学校

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について 授業や先生について	授業に必要な用具の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	123	31	2	3	159	96.9%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	108	41	7	3	159	93.7%
3		授業で学習した内容は、だいたい理解でき、また身に付いている。	87	60	7	5	159	92.5%
4		授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	81	56	18	3	158	86.7%
5		生徒の感性や表現の技能を高めようと授業に熱心に取り組んでいる。	119	37		2	158	98.7%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	110	41	5	2	158	95.6%
7		発問や説明は適切である。	115	35	6	2	158	94.9%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	106	42	6	3	157	94.3%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	126	28	2	2	158	97.5%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	131	25		2	158	98.7%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

1. 歌唱、合唱の表現力をつけるため発声法を細かく指導した。
2. 生徒の音楽理論曲の統一した定着をはかった。(例 音符、休符の長さなど)
3. 楽しく、よりよい表現をするため曲のアナリゼを重点的に行なった。

(b) 成果

1. 発声法を取得したことにより、より声のでるようになり楽しく歌えている。
2. 多種の小学校から集まっているので基礎の初めから確認したことはよかった。
3. より深い表現をするのに役立った。

(c) 課題

1. 一部の男子生徒にとっては声が変わることなどで苦痛も伴っていると思う。
2. もう少し丁寧な説明が必要である。
3. もう少しわかりやすい説明が必要である。

(d) 改善策

1. 中学時代は声が出にくい(女子も変声期がある)ことをしっかり認識させ、自信をもって歌うことを楽しませたい。男子は無理せず、声が出る部分のみ歌うよう指導する。
2. ていねいに説明していく。
3. 資料作成にあたりさらに工夫をする。

令和2年度生徒授業評価 中1美術 南高校附属中学校

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について 授業や先生について	授業に必要な用具の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	132	24	2	2	160	97.5%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	119	36	2	3	160	96.9%
3		授業で学習した内容は、だいたい理解でき、また身に付いている。	104	48	7	1	160	95.0%
4		授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	94	48	15	2	159	89.3%
5		生徒の感性や表現の技能を高めようと授業に熱心に取り組んでいる。	111	41	5	2	159	95.6%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	116	37	5	1	159	96.2%
7		発問や説明は適切である。	115	37	4	2	158	96.2%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	113	38	6	2	159	95.0%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	103	42	11	3	159	91.2%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	122	33	2	2	159	97.5%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

表現の基礎を理解させるように進めていった。

(b) 成果

一人一人に表現の仕方に差はあるが、対象のとらえ方は上手に出来るようになった。

(c) 課題

個人の技能の差があり、それが意欲の差にもなっている。

(d) 改善策

個別に丁寧にアドバイスをしていく。

令和2年度生徒授業評価 中1保健体育 南高校附属中学校

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について 授業や先生について	授業に必要な用具の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	131	26		1	158	99.4%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	117	34	5	2	158	95.6%
3		授業で学習した内容は、だいたい理解でき、また身に付いている。	106	48	3	1	158	97.5%
4		授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	141	15		2	158	98.7%
5		生徒の体力や技能を高めようと授業に熱心に取り組んでいる。	142	14		2	158	98.7%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	136	20		2	158	98.7%
7		発問や説明は適切である。	129	27		2	158	98.7%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	120	35	1	2	158	98.1%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	128	25	3	2	158	96.8%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	128	28		2	158	98.7%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

- ①オリエンテーションで保健体育科の授業の学び方、挨拶、整列、準備運動といった基本の授業規律を徹底し、集団での行動がスムーズにできるように指導した。
- ②今年度は外出自粛の影響により、運動の機会の減少や体力の低下が懸念された。そのため家庭で取り組める運動や個人で手軽に行えるトレーニングを多く取り入れた。

(b) 成果

- ①授業評価では、どの項目も90%以上と高い評価を受けた。授業開始前に道具を準備したり整列指示を出す様子も見られ主体的に取り組もうとする生徒も増えてきたことがうかがえる。
- ②家庭で取り組みやすく、またお手本を映像などで確認できる手軽な運動を授業に取り入れたことで、将来必要に応じて運動を選択したり生涯にわたってスポーツに親しむ力を養うことに繋がったと考えられる。

(c) 課題

- ③けがの要因として、体力や筋力、運動の機会の少なさが原因の一つとして考えられる。
- ④クラスでの友人関係がそのまま授業に影響し、消極的になる生徒がいた。生徒の生活の様子をできるだけ把握しておく必要がある。

(d) 改善策

- ③例年行っていた「サーキットトレーニング」を授業の始めに取り入れ、個々の課題や目標にあった運動で体力の向上を目指す。
- ④運動が苦手な生徒、コミュニケーションに課題のある生徒がいることを常に意識して、どの単元でもチームやペアで協力して活動する場を大切にしていこう。

令和2年度生徒授業評価 中1技術 南高校附属中学校

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について	授業に必要な用具の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	123	32	3	2	160	96.9%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	99	49	9	3	160	92.5%
3		授業で学習した内容は、だいたい理解でき、また身に付いている。	71	71	16	2	160	88.8%
4	授業や先生について	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	89	53	15	2	159	89.3%
5		生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	88	55	14	2	159	89.9%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	108	46	4	1	159	96.9%
7		発問や説明は適切である。	100	49	9	1	159	93.7%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	92	53	11	3	159	91.2%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	74	53	27	4	158	80.4%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	109	40	7	3	159	93.7%

<授業評価を受けて>

<p>(a)取り組み</p> <p>①小学校でプログラミングの授業の開始に伴い基礎学習を発展させる教材として使っている 課題学習を意識し行っています。</p> <p>②自己の考え、表現は個性に合わせた力をつけるためロボットの制御プログラムを取り入れた</p> <p>(b)成果</p> <p>①興味を持ち積極的にパソコンに取り組んでいる。</p> <p>②楽しんで表現操作し、相互に教えあえる環境を作れる。</p> <p>③ワープロの授業を増やしたことによりPCの利用範囲が広がっています</p> <p>(c)課題</p> <p>①機器の働きの重点化に更に取り組みたい。</p> <p>②携帯電話の普及により情報入力の方法の違いとモラルの課題を考えたい</p> <p>(d)改善策</p> <p>①PCの利用と目的を学ぶことから授業の導入を始める</p> <p>②スマートフォンとパソコンの使い道の違いと目的をはっきり区別させる</p>
--

令和2年度生徒授業評価 中1家庭 南高校附属中学校

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について	授業に必要な用具の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	135	21		3	159	98.1%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	129	25	2	3	159	96.9%
3		授業で学習した内容は、だいたい理解でき、また身に付いている。	106	47	4	2	159	96.2%
4	授業や先生について	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	104	45	8	1	158	94.3%
5		生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	131	26		1	158	99.4%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	133	22	2	1	158	98.1%
7		発問や説明は適切である。	129	28		1	158	99.4%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	129	25	3	1	158	97.5%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	134	19	4	1	158	96.8%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	131	23	2	1	157	98.1%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

○2か月の休校と新型コロナ感染予防から様々な制約が多い状況での授業展開であった。

○生活に必要な衣・食・住と幅広い内容を日常生活に結び付け、実習と組み合わせて考える授業を展開したが、制約が多く、実習時間の確保が難しいところもあった。

(b) 成果

○生活技術がしっかりと身につけているといえる生徒は多くはないが、日常生活と結び付けて授業を展開したことで、授業に対する興味関心は全体的に高くなっている。

(c) 課題

○数少なく、また今年度は様々な制約がある中での授業となったため、生活技術を定着させるために必要な繰り返し練習が必要であるが、その時間を十分に確保することができない。(時間確保が難しいのは今年度に限らないが、今年度はより厳しいものがあつた。)

○例年のことではあるが、11月から技術の授業から家庭科の授業に代わり、数回の授業で授業評価を行うのは厳しいと感じる。

(d) 改善策

○生活技術の習得については、学校の授業で行うだけでは不十分である。家庭で自発的に練習の機会を作ってもらえるような魅力的な授業内容や技術の習得意欲が高まる授業内容を考えていきたい。

令和2年度生徒授業評価 中1英語 南高校附属中学校

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について 授業や先生について	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	93	56	8	2	159	93.7%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	121	30	6	2	159	95.0%
3		授業で学習した内容は、だいたい理解でき、また身に付いている。	105	47	6	1	159	95.6%
4		授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	146	11		1	158	99.4%
5		生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	149	8		1	158	99.4%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	147	10		1	158	99.4%
7		発問や説明は適切である。	136	21	1		158	99.4%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	143	13	1	1	158	98.7%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	140	17		1	158	99.4%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	124	14			138	100.0%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

- ① 小学校外国語活動との相違点やラウンド制授業について生徒が理解したことで、意欲的に学習する動機付けとなり、項目1は過去3年間で最高値の評価を得られた。
- ② 生徒が、活動ごとの目的と学び方を、理解してから授業に臨んだことで、項目3は昨年度より改善が見られた。
- ③ 英語によるコミュニケーションにおいては、「わからない」ことを当然としながら、その場で教員と英語で確認したり、生徒同士で話し合う機会を多く設けたことで、項目9は過去3年間で最高値の評価を得られた。

(b) 成果

- ① 様々な活動を通して教科書の本文に繰り返し触れるラウンド制の授業方法を理解してもらうため、活動ごとに生徒にねらいを説明しながら授業を進めた。特に、令和2年度の休校期間中には、小学校外国語活動とのブリッジ教材となる動画を作成した。
- ② 英語を教科学習として学ぶことが初めてであるため、授業規律・ペア活動の臨み方・家庭学習について丁寧に指導するよう心掛けた。具体的には、各ラウンド導入の説明で「このラウンドを通して身につけたい力」「そのために取り組めること」をプリントとともに説明し、その後生徒自身で「どのように学ぶか」を考え、書いてまとめる機会をもうけた。
- ③ 易しい英語で授業を進め、自分のことについて英語を用いて話す活動を毎時間設定することで、生徒が英語で考え、英語のやり取りで授業が進むことになれるように授業を行った。

(c) 課題

- ① 生徒の学習意欲を刺激する授業を心掛けたが、項目2は昨年度マイナス3.1%であり、主体的・積極的に授業に参加するような授業を展開する必要がある。
- ② 休校期間中の映像授業、登校再開時の授業の2回にわたって年間計画を説明したが、項目6は昨年度並み、項目4・5は昨年度マイナス0.6%であり、休校期間による授業計画の修正周知が不十分であった。
- ③ 易しい英語を用いた授業を心掛けたが、項目7は昨年度並みであった。生徒が分かりやすい発問や説明となるようさらに意識する必要がある。

(d) 改善策

- ① すべての生徒が主体的・積極的に授業に参加できるように、個に応じた支援・指導を意識する。
- ② 新単元ごとに年間計画を示し、部分と全体を確認しながら生徒に説明する。
- ③ Easy English, Simple Englishをより意識した発話を心掛ける。

令和2年度生徒授業評価 中2国語 南高校附属中学校

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	58	66	22	6	152	81.6%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	68	68	14	2	152	89.5%
3		授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	66	73	12	1	152	91.4%
4	授業や先生について	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	94	47	7	4	152	92.8%
5		生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	110	34	5	3	152	94.7%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	111	33	5	3	152	94.7%
7		発問や説明は適切である。	112	33	4	3	152	95.4%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	111	34	2	5	152	95.4%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	102	34	15	1	152	89.5%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	117	29	3	3	152	96.1%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

①生徒が主体的に国語学習に向き合えるよう言語活動を取り入れ、「思考力・判断力・表現力」を育てる授業実践を行った。(項目2・3)
 ②単元ごとに学習計画を生徒に提示し、学習目標や身に付けたい学力を意識させ、見通しを持って学習に取り組めるよう指導した。(項目4・5・6)
 ③漢字や言語に関する基礎的な知識が定着するよう、小テストを計画的に実施し、解き直しを行わせた。(項目1・3・5)
 ④全学年で「読書マラソン」を行い、進んで読書をするよう指導した。(項目3)

(b) 成果

①様々な言語活動を通して主体的に国語学習に取り組み、思考力・判断力・表現力を向上させることができた。
 ②単元ごとの学習計画を明確にし、見通しを持って学習させることができた。
 ③継続的な小テストや漢字練習により、言語に関する基礎的な知識や家庭学習の習慣を身に付けさせることができた。
 ④「読書マラソン」を継続的にを行い、読書に親しみ、読解力の向上にも繋がさせられた。

(c) 課題

授業評価に関しては、おおむね満足できる状況であるが、項目1の予習・復習に関して、他の項目より低い数値である。また、グループ学習や一斉学習などの様々な学習形態で授業を展開する際に個々に応じた支援の仕方が課題である。

(d) 改善策

家庭学習に意欲的・継続的に取り組めるよう、授業時に理解した内容の家庭での復習法を指導する等、課題を明示して、家庭学習の有用性を示していく。個々の学習が充実することが全ての基盤であることを意識して、様々な形態での学習活動が「思考力・判断力・表現力」の育成や深まりに繋がっていることを理解できるような指導を行っていく。

令和2年度生徒授業評価 中2社会 南高校附属中学校

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	70	66	13	1	150	90.7%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	79	63	7	1	150	94.7%
3		授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	84	56	9	1	150	93.3%
4	授業や先生について	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	124	25		1	150	99.3%
5		生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	137	12		1	150	99.3%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	134	15		1	150	99.3%
7		発問や説明は適切である。	135	14		1	150	99.3%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	129	19	1	1	150	98.7%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	124	22	2	2	150	97.3%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	131	16	1	1	149	98.7%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

- ①多面的・多角的な思考力をつける学習を目指し、各単元で個人学習、ペアワーク、全体学習を多く取り入れた。また生徒の作品をお互いに読み合う活動を実施した。
- ②毎時間の授業でその時間の課題を提示し、課題に対しての振り返りを限られた文字でまとめる活動を実施した。また思考の整理ができるようになるために、各単元の終わりには、さまざまな思考ツールを活用した。
- ③基礎基本の定着を図るために、また予習を促すプリントを作成し、実施した。
- ④各単元でその単元を貫く課題を提示し、生徒に学習の見通しや目的意識をもたせるようにした。また単元における1時間ごとの学習活動の内容や評価項目を示した単元計画を配布した。

(b) 成果

- ①プリントなどの書き込みに、他者の意見を書き、多面的・多角的な考えを持つ生徒が増えた。
- ②毎時間の授業で、何を身につけるための授業なのか明確になり、意欲的に授業に取り組む生徒が増え、文章をまとめる力が身についてきた。思考の整理を行うことによって、自分が考えていることを表現する力が身についてきた。
- ③継続的な学習を積み重ねる生徒の増加につながった。
- ④課題の提示や単元計画の提示により、単元の見通しを持たせることで、主体的に学習に取り組む生徒の割合が昨年度より増加した。

(c) 課題

- ①個人学習、ペアワーク、全体学習を行う際の個々に応じた指導が必要だと感じる。また学習が苦手な生徒に対してのフォローをしっかりと実施していくべきだと感じる。
- ②項目9の数値が低いことから、自身の発問の仕方や授業への取り組みなどを見直すべきだと感じる。教師自らがより積極的に声をかけ発問していくことが重要だと感じた。

(d) 改善策

- ①より多くの生徒が主体的に学習できるように、今後も単元計画の作成を継続させ、生徒と共有していく。
- ②予習・復習の大切さを生徒と確認をし、予習プリントの作成を継続していく。
- ③個々にあった指導を行うためにも、より多くの机間指導で、細かい助言をしていく。

令和2年度生徒授業評価 中2数学 南高校附属中学校

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	60	70	15	4	149	87.2%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	81	59	8	2	150	93.3%
3		授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	81	61	7	1	150	94.7%
4	授業や先生について	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	102	42	6		150	96.0%
5		生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	126	23	1		150	99.3%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	127	23			150	100.0%
7		発問や説明は適切である。	131	15	4		150	97.3%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	126	22	2		150	98.7%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	112	28	10		150	93.3%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	122	25	2	1	150	98.0%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

- ①体系数学を教材とし、発展的な内容を扱った授業を行う。
- ②週5時間のうち、3時間を主に代数を学ぶ授業、2時間を主に幾何の授業として、異なる先生で行う。
- ③完成ノートの子エックシートを配布し、日々チェックを行う。また、計画的に学習を進めるように指導する。
- ④定期テスト、基礎力診断テスト、模擬試験などの振り返りを毎回、その方法も含めて指導し、評価する。
特に、定期テスト、基礎力診断テストの直しについては、しっかり丁寧に行った。
- ⑤基礎力診断テストの得点が8割に満たない生徒に対して、課題の提出と再試験を実施する。
- ⑥長期休みには基礎の定着を促すため、計算マラソンや課題を実施している。
- ⑦自己評価カードを利用して授業でわかったことや身についたことを記入させ、疑問点の吸い上げも行う。
- ⑧学び合いの学習により、生徒が自ら考え、発見し、議論する時間を設ける。

(b) 成果

- ①生徒の理解度を見ながら進めたため、大半の生徒は内容を理解できている。
- ②数学の内容をバランスよく学習できている。進度が緩やかになり、丁寧な指導ができた。
- ③日々生徒の問題集の進捗状況を確認することができ、学力の向上につながった。
- ④個別に対応できるため、生徒の理解度や意欲の向上につながっている。また、次のテストに向けての取り組み方を考えるいい機会になっている。
- ⑤基礎の計算力の定着につながっている。
- ⑥学習する習慣が定着してきている。
- ⑦自己評価カードを記入させることで、個々の理解度を把握したり疑問点を吸い上げることができた。

(c) 課題

- ・今年度の年間授業計画と実際の進度を振り返り、週3回の授業と週2回の授業で指導する内容や単元、順番を改めて見直す必要がある。
- ・完成ノートの子エックシートの計画的な取り組み方の差に課題が残る。

(d) 改善策

- ・主体的・積極的に参加できる雰囲気をつくるために、生徒間で討論させたり発表させたりする授業を引き続き検討し、実施する。
- ・年間授業計画を見直し、より適切な進度で授業を進めていく。
- ・定期試験ごとなど、必要に応じて補習を実施する。

令和2年度生徒授業評価 中2理科 南高校附属中学校

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について 授業や先生について	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	69	73	8	2	152	93.4%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	96	49	6	1	152	95.4%
3		授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	100	47	5		152	96.7%
4		授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	139	11	1	1	152	98.7%
5		生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	126	24	2		152	98.7%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	143	8	1		152	99.3%
7		発問や説明は適切である。	140	11	1		152	99.3%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	138	14			152	100.0%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	141	11			152	100.0%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	142	9	1		152	99.3%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

①新型コロナウイルス感染症対策や授業時数の不足に対応するため、年間指導計画を見直し、授業の工夫や改善を行った。
 ②生徒が単元の見通しや目的意識をもち、主体的に学習に取り組むことができるよう、単元における1時間ごとの学習内容と評価計画を示した「学びのプラン」を作成し、配付した。
 ③本物にふれる体験を重視し、観察や実験を中心とした授業を行った。
 ④理科の目標である「科学的に探究する力の育成」を図るため、探究に必要な「基本的な知識や技能を習得する活動」と、習得した知識や技能を活用して「科学的に探究する活動」を計画的に単元に組み入れ、指導を行った。
 ⑤ノートは板書を写すのではなく、各自が工夫してまとめるよう指導し、その取り組みに応じた評価を行った。
 ⑥授業中に生徒が作業に取り組む時間などを活用し、生徒全員と1対1の教育相談を行った。

(b) 成果

①授業内容の精選やワークシートの活用などにより、限られた時間の中でも充実した活動を行うことができた。
 ②「学びのプラン」により、1時間ごとの授業のねらい(評価のポイント)や単元全体を通した授業のつながりが明確になり、生徒が見通しをもって、主体的に学習に取り組むことができた。
 ③観察や実験を通して自然の美しさや不思議にふれ、理科への興味関心を高めることができた。
 ④科学的に探究する活動を通して、「問題を見いだす」「課題を解決する方法を立案する」「結果を分析して解釈し表現する」などの、科学的に探究する力を育成することができた。
 ⑤自分なりに考え、工夫してノートまとめる生徒が多くなり、思考力・表現力が向上した。
 ⑥生徒一人ひとりが学習状況の現在地を把握するとともに、学習に対して困り感を抱えている生徒へのフォローや具体的な学習方法のアドバイスなどをすることができた。

(c) 課題

①今年度は生徒全員との教育相談など新たな取り組みを行ったが、依然として、観点別の学習評価が「B」(おおむね満足できる状況)に達していない生徒へのフォローが充分ではない点が課題として挙げられる。

(d) 改善策

①昨年度に引き続き、以下の取り組みを重視する。
 ・毎時間の授業における評価規準(その授業で達成すべきゴール)を生徒と共有し、見通しと目標をもって毎時間の授業に取り組むことができるようにする。
 ・小テストや技能テストを行い、基本的な知識や技能の習得を促す。
 ・ノートにまとめたことを発表し合ったり、ノートを回覧し合ったりする活動を行い、学び合いの文化を醸成する。

令和2年度生徒授業評価 中2音楽 南高校附属中学校

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について	授業に必要な用具の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	116	28	6	1	151	95.4%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	99	43	8	1	151	94.0%
3		授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	91	43	16	1	151	88.7%
4	授業や先生について	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	76	52	16	7	151	84.8%
5		生徒の感性や表現の技能を高めようと授業に熱心に取り組んでいる。	119	30	1	1	151	98.7%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	109	35	4	3	151	95.4%
7		発問や説明は適切である。	115	30	3	2	150	96.7%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	103	41	4	3	151	95.4%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	116	28	5	2	151	95.4%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	125	24	1	1	151	98.7%

<授業評価を受けて>

<p>(a)取り組み</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歌うという基本に忠実に発声法に重点を置いた。 2. 音楽を楽しむために導入で曲の分析を行った。 3. 羞恥心を取り除くため多くソロ、2重唱(奏)3重唱(奏)を取り入れた。 <p>(b)成果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2年生で変声も進みかなり歌を楽しめていると思う。 2. 分析の結果さらに奥深い興味をもち始めた面が見られる。 3. 自信を深め2重唱などを楽しむ様子も見られた。 <p>(c)課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発声は常に喚起しないと戻ってしまいがちである。 2. 説明、時代考証など簡潔に伝わらない場合もあった。 3. やはり成長過程の様々な生徒達にとっては苦手意識が消えない生徒もあり苦痛を感じる場面 <p>(d)改善策</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 繰り返しわかりやすい説明をし見本を示し定着を図る。 2. とにかく授業数が少ないので、見やすい資料、簡潔な説明を心がける。 3. 成長過程(変声)の遅い生徒達に十分に配慮して行いたい。

令和2年度生徒授業評価 中2美術 南高校附属中学校

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	「 自分 自身 につ いて 授 業 や 先 生 につ いて	授業に必要な用具の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	115	35	1		151	99.3%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	96	49	6		151	96.0%
3		授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	89	53	8	1	151	94.0%
4		授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	78	50	20	3	151	84.8%
5		生徒の感性や表現の技能を高めようと授業に熱心に取り組んでいる。	97	47	5	2	151	95.4%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	100	46	4	1	151	96.7%
7		発問や説明は適切である。	108	35	7	1	151	94.7%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	97	43	10	1	151	92.7%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	106	39	5	1	151	96.0%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	123	28			151	100.0%

<授業評価を受けて>

<p>(a) 取り組み</p> <p>一年時の表現をさらに深めるようにしている。</p> <p>(b) 成果</p> <p>基本を理解し、表現に生かせるようになっている。</p> <p>(c) 課題</p> <p>意欲を引き出せる工夫。</p> <p>(d) 改善策</p> <p>丁寧なアドバイスを徹底し、時間に余裕をもたせたい。</p>
--

令和2年度生徒授業評価 中2保健体育 南高校附属中学校

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について	授業に必要な用具の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	104	43	2		149	98.7%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	96	48	5	1	150	96.0%
3		授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	92	47	8	3	150	92.7%
4	授業や先生について	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	137	10	2		149	98.7%
5		生徒の体力や技能を高めようと授業に熱心に取り組んでいる。	135	14		1	150	99.3%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	129	18	3		150	98.0%
7		発問や説明は適切である。	125	22	2	1	150	98.0%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	104	40	5	1	150	96.0%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	111	31	5	3	150	94.7%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	126	22	2		150	98.7%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

①オリエンテーションで保健体育科の授業の学び方、挨拶、整列、準備運動といった基本の授業規律を徹底し、集団での行動がスムーズにできるように指導した。
 ②今年度は外出自粛の影響により、運動の機会の減少や体力の低下が懸念された。そのため家庭で取り組める運動や個人で手軽に行えるトレーニングを多く取り入れた。

(b) 成果

①授業評価では、どの項目も90%以上と高い評価を受けた。授業開始前に道具を準備したり整列指示を出す様子も見られ主体的に取り組もうとする生徒も増えてきたことがうかがえる。
 ②家庭で取り組みやすく、またお手本を映像などで確認できる手軽な運動を授業に取り入れたことで、将来必要に応じて運動を選択したり生涯にわたってスポーツに親しむ力を養うことに繋がったと考えられる。

(c) 課題

③けがの要因として、体力や筋力、運動の機会の少なさが原因の一つとして考えられる。
 ④クラスでの友人関係がそのまま授業に影響し、消極的になる生徒がいた。生徒の生活の様子をできるだけ把握しておく必要がある。

(d) 改善策

③例年行っていた「サーキットトレーニング」を授業の始めに取り入れ、個々の課題や目標にあった運動で体力の向上を目指す。
 ④運動が苦手な生徒、コミュニケーションに課題のある生徒がいることを常に意識して、どの単元でもチームやペアで協力して活動する場を大切にしていく。

令和2年度生徒授業評価 中2技術 南高校附属中学校

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について	授業に必要な用具の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	93	45	11	1	150	92.0%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	56	73	19	2	150	86.0%
3		授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	57	64	25	4	150	80.7%
4	授業や先生について	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	48	59	35	8	150	71.3%
5		生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	70	63	14	3	150	88.7%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	58	60	24	8	150	78.7%
7		発問や説明は適切である。	60	60	23	7	150	80.0%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	70	52	25	3	150	81.3%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	80	52	13	5	150	88.0%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	104	42	3	1	150	97.3%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

- ①生活に必要な知識を習得するための意識を高める。
- ②課題解決の能力をつけ、創意工夫できる力を育てる。
- ③歴史から現在が成り立っている発展と現代に残され利用されているものを発見活用させる。

(b) 成果

- ①もの作りについては、創造性を進化させ材料の特徴から独自の作品で表現できるようにする。
- ②現在のエネルギーの現況を知り今後のエネルギーについてかんがえさせることができた。
- ③作品の完成度を高めることにより達成感、成就感を感じ取らせた。

(c) 課題

- ①教科目標と充実した授業は専門の技術科教室は必修に思います。
- ②ワークシートの活用充実を発展させたい。
- ③作業時間のできる範囲での目標とする作品を考えていきたい。

(d) 改善策

- ①教材が同じ作品ではなく、創意あるものとしたい。
- ②教室と作業工具の充実を図り講義と実技を関連付けて実践していきたい

令和2年度生徒授業評価 中2家庭 南高校附属中学校

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について 授業や先生について	授業に必要な用具の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	111	35	4		150	97.3%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	103	44	2	1	150	98.0%
3		授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	90	54	4	1	149	96.6%
4		授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	121	23	3	3	150	96.0%
5		生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	132	15	2	1	150	98.0%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	128	19	2	1	150	98.0%
7		発問や説明は適切である。	135	13	1	1	150	98.7%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	122	24	3	1	150	97.3%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	129	19	1	1	150	98.7%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	125	23	1	1	150	98.7%

<授業評価を受けて>

(a)取り組み

○新型コロナウイルス感染症予防のため、様々な制約はあったが、個人作業を多く取り入れるなどして、可能な限り実習を実施し、生活技術の習得と技術の向上を目指す授業を実施した。

○休校中には「生活力をつけよう」という課題を出し、自身の生活課題を考え、実践する機会を設けた。

(b)成果

○授業の開始前に休校中の課題をやったことで、例年に比べ、生活技術の習得の必要性を意識している生徒が多く、授業などにも意欲的に取り組む生徒が多かった。

○技術面だけでなく、日常生活に必要な知識の面においても、自分自身の生活を振り返り、健康でより良い生活をおくるために必要な課題を考えることができた。

(c)課題

○授業には意欲的に取り組んではいたものの、生活技術の定着には、繰り返し実施することが必要であり、授業だけではその時間を十分に確保することができない。今年度は特に様々な制約があり、一層厳しいものがあつた。

(d)改善策

○生活技術の習得については、学校の授業で行うだけでは不十分である。家庭で自発的に練習の機会を作ってもらえるような魅力的な授業内容や習得意欲が高まる題材等を工夫していく。

令和2年度生徒授業評価 中2英語 南高校附属中学校

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	49	78	23	4	154	82.5%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	93	56	5		154	96.8%
3		授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	96	50	7	1	154	94.8%
4	授業や先生について	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	139	15			154	100.0%
5		生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	137	16	1		154	99.4%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	136	18			154	100.0%
7		発問や説明は適切である。	131	18	5		154	96.8%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	125	23	6		154	96.1%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	132	20	2		154	98.7%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	138	15			153	100.0%

<授業評価を受けて>

<p>(a) 取り組み</p> <p>①例年と同様に、手法を変えながら教科書の本文に繰り返し触れる、ラウンド制の方法を、生徒とねらいを共有しながら行い、基礎となる英語の語彙、表現、文法などが自然に身につくように授業を行った。授業はすべて易しい英語を用いて行い、英語で考え、やり取りさせる場面を多く設けた。</p> <p>②「自学ノート」での学習を推進し、家庭学習でのライティングの習慣の大切さを伝えた。</p> <p>③定期的・計画的に、副教材を使つての簡単な文法事項の整理を授業に取り入れた。</p>
<p>(b) 成果</p> <p>①ラウンド制のしくみと効果を、例年以上に理解して、授業に取り組む生徒が多く、4と6の項目が、100%であった。</p> <p>②授業中の教師の発問や生徒同士のやりとりの大切さに気づき、熱心に取り組む生徒が多いため、授業や先生についての全項目において、昨年度の2年生よりもポイントが高出ている。</p>
<p>(c) 課題</p> <p>自分自身についての各項目から見えることとして、2や3の授業中の様子、学習内容の理解については、おおむね高得点を保っているが、1の項目の家庭学習の意欲に関しては、1年次や昨年度の2年生と比較しても、やや下降している。</p>
<p>(d) 改善策</p> <p>引き続き、自学ノートを推奨する中で、効果的な学習方法を具体的に示したり、他の生徒の取り組みを紹介したりしながら、モチベーションを高める指導をする。</p> <p>また、自主的な自学ノートに加えて、授業内で「家庭での復習」の方法を教え、定期的に課題を出すなど、家庭で英語の学習を行う習慣づけをしていきたい。</p>

令和2年度生徒授業評価 中3国語 南高校附属中学校

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	77	53	20	7	157	82.8%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	92	58	7	1	158	94.9%
3		授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	92	61	4	1	158	96.8%
4	授業や先生について	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	115	37	5	1	158	96.2%
5		生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	141	14	1	2	158	98.1%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	132	21	3	2	158	96.8%
7		発問や説明は適切である。	125	26	5	2	158	95.6%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	127	24	6	1	158	95.6%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	127	25	3	3	158	96.2%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	124	20	1	2	147	98.0%

<授業評価を受けて>

<p>(a) 取り組み</p> <p>①令和2年度も引き続き、生徒が主体的に国語学習に取り組めるよう、言語活動を取り入れ「思考力、判断力、表現力」を育てる授業実践を行った。(項目2・3)</p> <p>②単元のはじめに学習計画を生徒に提示し、その学習で身につける学習課題(目標)を明確にして授業を行った。(項目4・5・6)</p> <p>③漢字や言語に関する基礎的な知識が定着するよう、小テストを計画的に実施し、解き直しを課題とした。また、基礎力診断テストでは、規準点に達するまで再テストや解き直しなどの課題を出した。(項目1・3・5)</p> <p>④古典学習では、音読を中心に教科書以外の古文も多読し、高等学校での国語総合(古典分野)への橋渡しとなるよう工夫した。(項目3・6・7)</p> <p>⑤全学年で「読書マラソン」を行い、楽しみながら読書に親しめるよう指導をした。(項目1・2)</p> <p>⑥全学年で新聞社説の視写を家庭学習の課題とし、読解力・表現力育成の一助とした。(項目1・6)</p>
<p>(b) 成果</p> <p>①さまざまな言語活動を取り入れた授業を通して生徒が主体的に国語学習に取り組み、思考力、判断力、表現力向上させることができた。</p> <p>②単元のはじめに学習課題(目標)を明確にすることで、生徒と教師がねらいを共有し、効果的に学習を進めることができた。</p> <p>③小テストの計画的な実施と解き直しによって、漢字や語句の知識が身につけていった。</p> <p>④いろいろな古典の作品に触れることで、古典に親しむとともに、高校の学習への繋がりを意識することができた。</p> <p>⑤「読書マラソン」の継続によって、読書の楽しみに気づき、読書に親しむことができた。</p> <p>⑥新聞社説の視写の継続によって、読解力・表現力育成の一助とすることができた。</p>
<p>(c) 課題</p> <p>授業評価については、昨年度と比べても全般的に数値が上がってきており、おおむね満足できる状況である。ただし、項目1の予習復習に関して、他の項目よりやや数値が低いことが課題である。言語活動では、常に生徒の学習意欲を引き出すための「問いづくり」を工夫することが課題と言える。</p>
<p>(d) 改善策</p> <p>項目1の予習・復習については、家庭学習によって、授業で学習したことが定着することを生徒自身が自覚すること、そして家庭学習の内容を限定的に考えず、新聞の社説の視写や読書の継続が、総合的な国語力の向上に有効であることを理解して取り組むことが大切だと考える。生徒が興味・関心をもって学習に取り組めるような「問いづくり」を、常に工夫していくことが主体的な学びに繋がると考える。</p>

令和2年度生徒授業評価・中3社会 南高校附属中学校

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	72	68	11	4	155	90.3%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	108	43	3		154	98.1%
3		授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	100	49	6		155	96.1%
4	授業や先生について	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	141	14			155	100.0%
5		生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	143	11	1		155	99.4%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	144	10			154	100.0%
7		発問や説明は適切である。	144	11			155	100.0%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	144	10	1		155	99.4%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	129	23	2	1	155	98.1%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	139	12	1		152	99.3%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

公民的分野では、身近な事例や最近の社会情勢等、生徒の関心や学習意欲が喚起されるような題材選びを積極的に行った。また、一年間を通して、自身の思考を記述活動を通して、他者に伝える機会を設けてきた。そこから互いの思考を様々な方法を通して交流させることで、自分自身の考えを再構築し、深めていくための時間を大切に学習活動を積み重ねた。

(b) 成果

アンケート結果より、日々の学習活動に対する生徒の反応は概ね良好であったように考えられる。特に、入学当時、社会科に苦手意識を抱いていた生徒たちが意欲的に学習に取り組むことで、各学級・学年として良質な学習環境を生み出し、互いに学び合い、深め合うことのできる学習の実現につながった。

(c) 課題

例年の課題となっている評価の在り方などについては、今後もさらに検討を深めていかなければならないと感じる。また、学校における授業だけでなく、家庭学習へのフォロー等を行うことで日々の学習効果をさらに高めていくことも今後の課題としたい。

(d) 改善策

単元を通した評価の在り方について、生徒に事前に説明を行い、学習の見通しを立たせていくことが大切であると考え。また、家庭学習のフォローについては、授業時に小テスト等、細かな課題を単元終了時などに設定することで、意識付けを行っていく必要があると思われる。

令和2年度生徒授業評価 中3数学 南高校附属中学校

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標	
1	自分自身について	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	58	73	21	4	156	84.0%	
2		主体的、積極的に授業に参加している。	85	64	7		156	95.5%	
3		授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	75	68	11	2	156	91.7%	
4		授業や先生について	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	106	43	7		156	95.5%
5			生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	143	13			156	100.0%
6			学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	133	21	2		156	98.7%
7			発問や説明は適切である。	135	20	1		156	99.4%
8			板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	132	22	2		156	98.7%
9			公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	129	24		2	155	98.7%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	120	20		1	141	99.3%	

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

①体系数学を教材とし、発展的な内容を扱った授業を行う。
 ②中学から高校の内容へ円滑に繋げるため、週に2回高校の先生が授業をする。
 ③完成ノートのチェックシートを配布し、日々チェックを行う。提出は事前に生徒へ連絡し、計画的に学習を進めるように指導する。
 ④定期テスト、基礎力診断テストなどの振り返りを毎回、その方法も含めて指導し、評価する。
 ⑤定期テストや基礎力診断テストの結果が悪くなった生徒に対し、補習を定期的に行う。
 ⑥基本となる計算力を高めるため、毎授業のはじめに3分間テストを行う。
 ⑦自己評価カードを利用して授業で良かったことや身についたことを記入させ、疑問点の吸い上げも行う。

(b) 成果

②今年度は高校の先生に1年間T1として入ってもらい、生徒には良い機会になったと思う。
 ④⑤各々の苦手を把握・克服し、次のテストに向けての取り組み方を考える良い機会になっている。
 テスト後の反省も含め、勉強するペースの確立につながっている。
 ⑥計算のスピードや確実性を高めることにつながっている。
 ⑦自己評価カードを記入させることで、個々の理解度を把握したり疑問点を吸い上げることができた。

(c) 課題

・昨年度課題に挙げていた予習・復習などの学習の準備をして、意欲的に学習に取り組めていないと感じている生徒は減ったが、学習した内容を理解できていないと感じている生徒がまだいる。
 ・今年度、指導する単元の順番を変更したので来年度へ向けての反省等引き継ぐことが必要である。

(d) 改善策

・自分の力で解けるように、間違えた問題を繰り返し解く習慣をつけさせる。
 応用問題を解く機会を増やし、学習した内容を活用できるようにさせる。
 ・次年度の外部テスト実施計画等を踏まえて、年間授業計画の作成にあたる。

令和2年度生徒授業評価 中3理科 南高校附属中学校

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	45	69	37	6	157	72.6%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	85	61	11		157	93.0%
3		授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	82	64	11		157	93.0%
4	授業や先生について	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	99	53	5		157	96.8%
5		生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	114	40	3		157	98.1%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	129	27	1		157	99.4%
7		発問や説明は適切である。	133	20	4		157	97.5%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	130	25	2		157	98.7%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	129	26	1	1	157	98.7%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	117	24		2	143	98.6%

<授業評価を受けて>

<p>(a) 取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容と日常生活の関わりを考えたり、学んだことをさらに詳しく調べたりする課題を設けた。 ・高校の先生とITで地学の授業を行った。 ・PCを活用する機会を設け、発表する場を設けた。 ・週に1度1, 2年生の内容を復習するためのテストを行った。 <p>(b) 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちは高校の先生の授業スピードやスタイルに慣れた。また、内容を深く掘り下げて学習することができた。 ・プレゼンテーションの準備をしたり、発表をすることができた。主体的・積極的に取り組んだ生徒の割合が増加した。 ・授業で学習した内容が身についたと感じる生徒の割合が <p>(c) 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習や復習など学習の準備を意欲的に行った生徒の割合が低い。計画的に復習を進めるようこちらからも促していく必要がある。 ・授業内に考える時間を確保するために、他の部分を宿題にしたが、宿題になった内容があまり身につけていない様子であった。 <p>(d) 改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的にテスト以外の場面で学習内容の定着を実感できるような機会を設ける。 ・宿題や課題として扱った内容についてのフォローを丁寧に行う。

令和2年度生徒授業評価 中3音楽 南高校附属中学校

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について 授業や先生について	授業に必要な用具の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	95	40	17	5	157	86.0%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	99	49	8	1	157	94.3%
3		授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	88	56	12	1	157	91.7%
4		授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	103	40	10	4	157	91.1%
5		生徒の感性や表現の技能を高めようと授業に熱心に取り組んでいる。	125	31	1		157	99.4%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	118	33	6		157	96.2%
7		発問や説明は適切である。	118	33	5	1	157	96.2%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	112	38	6	1	157	95.5%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	120	33	3	1	157	97.5%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	118	28	1		147	99.3%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

- 情操的教育を心掛け、常に心で音楽を感じ表現できるよう行った。
- 表現活動に必要な音楽的基礎能力の助長に努めた。
- 歴史的な背景を意識させながら音楽理論の理解に努めた。

(b) 成果

- 作品への接し方や見方の角度を変えることによる表現の違いを発見できた生徒も多かったように思える。
- 音楽そのものへの感じ方や関わり方を常に新鮮に捉えられる生徒の増加。

(c) 課題

- 音楽的基礎能力の高まりが自己の芸術表現につながるという点について体感させ、自己発展を促す授業展開が必要である。
- 自然や人間への興味関心を表現する元となる体験機会が更に必要である。

(d) 改善策

- 音楽的基礎能力についてリズムや楽典を通じ向上させるように努める。
- 情操を豊かにする授業をすすめていく為により多くの芸術作品に触れさせるよう努める。

令和2年度生徒授業評価 中3美術 南高校附属中学校

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について 授業や先生について	授業に必要な用具の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	119	34	1	2	156	98.1%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	124	30	2		156	98.7%
3		授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	112	39	4		155	97.4%
4		授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	113	37	5	1	156	96.2%
5		生徒の感性や表現の技能を高めようと授業に熱心に取り組んでいる。	119	32	5		156	96.8%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	126	28	2		156	98.7%
7		発問や説明は適切である。	123	30	2	1	156	98.1%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	111	41	4		156	97.4%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	125	27	3	1	156	97.4%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	120	26	3		149	98.0%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

年間の授業計画に伴い、生徒個人の進捗状況を確認しながら行った。

(b) 成果

生徒個人個人の取り組みを細かく観察し、評価できた。
時間数が少ないので作品の完成度を上げるのが大変であったが、生徒たちが自ら補習の時間を要望する位の主体性が育まれた。

(c) 課題

年度当初に年間計画の説明をしているが、忘れていた生徒が多かった。
また、美術が苦手な生徒にも主体的に取り組む姿勢を付けさせる工夫が必要である。

(d) 改善策

教材や指導方法の改善だけでなく、自発的創作活動時間を多めにとるなど、生徒の自主性をより高めていきたい。

令和2年度生徒授業評価 中3保健体育 南高校附属中学校

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について 授業や先生について	授業に必要な用具の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	128	26	2	1	157	98.1%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	122	31	2	2	157	97.5%
3		授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	107	43	3	3	156	96.2%
4		授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	142	14		1	157	99.4%
5		生徒の体力や技能を高めようと授業に熱心に取り組んでいる。	139	16		2	157	98.7%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	135	19	2	1	157	98.1%
7		発問や説明は適切である。	129	23	4	1	157	96.8%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	117	36	3	1	157	97.5%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	127	26	2	2	157	97.5%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	130	19	1	1	151	98.7%

<授業評価を受けて>

<p>(a) 取り組み</p> <p>①今年度は期間が短縮され、選択する種目にも制限があったが授業の年間計画を生徒に示し、領域で単元を選択する際の自分の方向性を早めに考えさせ、より興味関心を高めて授業に取り組めるようにした。</p> <p>②個人種目については各自の練習計画を立てさせ、授業もそれに沿って進めるようにした。集団種目については班編成、班練習、生徒との話し合いによって行えるようにした。</p> <p>③高校との連携を意識して、3年の授業ではできるだけ高校教員に助言をもらうようにし、どの運動種目も専門的な知識理解をおさえ、より高度な技能に挑戦できるようにした。</p> <p>④当初の休校期間中に自宅での運動を促すため、ダンスやトレーニングの動画配信を行った。</p>
<p>(b) 成果</p> <p>①指導計画や個人の選択計画を早めに伝え、授業もそれに沿って進めた成果として、項目4については99.4%の達成率を得ることができた。</p> <p>②生徒が主体的に授業を進める形態にしたため、項目1については98%以上の生徒が意欲を持って取り組んでいると答えている。このことから、自ら運動を選んだことで、その楽しさを十分に味わい、積極的に運動に関わることができたと言える。</p> <p>③体力の高め方、運動技能習得の方法や段階的な練習方法など、理論に関することを重視して説明したため、項目6については98%以上の評価を得ることができた。</p>
<p>(c) 課題</p> <p>①体育の時間を通して運動の楽しさを味わわせることはできたが、更に日常生活において積極的に運動を取り入れる方を自分で立てられるようにしていく必要がある。</p> <p>②偏りのある運動経験にならないよう、幅広い運動体験を進めていくことが課題である。その中でどの集団になってもお互いに高めあえる社会性を身につけさせる必要がある。</p>
<p>(d) 改善策</p> <p>①毎時間の授業時間のならず、昼休みや運動部の活動など、身体を思いきり動かす時間を確保し、またそれぞれの地域でも自主的なトレーニングが行えるよう、様々なメニューを教える。</p> <p>②これからの高校の授業や体育の行事に積極的に参加できるよう、球技の基礎的な技能をしっかりと身につけさせ、だれでもチームを組んで学習が進められるよう、様々な学習形態を工夫する。</p>

令和2年度生徒授業評価 中3技術 南高校附属中学校

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について	授業に必要な用具の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	102	46	9	3	160	92.5%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	88	56	13	3	160	90.0%
3		授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	85	60	12	3	160	90.6%
4	授業や先生について	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	80	56	19	5	160	85.0%
5		生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	96	49	12	3	160	90.6%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	82	58	14	6	160	87.5%
7		発問や説明は適切である。	80	52	22	6	160	82.5%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	77	63	14	6	160	87.5%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	91	50	13	6	160	88.1%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	97	51	4	2	154	96.1%

<授業評価を受けて>

(a)取り組み

- ①植物育成に適する条件や管理できる技術を学ぶ環境をかんがえられる。
- ②栽培の必要性和世界の食糧状況を含め今後の食糧事情をかんがえていく。
- ③実際に食糧とする野菜類を栽培管理し体験をさせる。

(b)成果

- ①植物育成に適する条件や管理できる技術を学び命の大切さを考えられた。
- ②栽培の必要性和世界の食糧状況を含め今後の食糧事情を自分の事と比較し考えさせた。
- ③知識学習を実践させることで多くの日本の食糧状況を学べた。

(c)課題

- ①家庭科との前期、後期の授業体制には無理があり生物育成や作業場所を考えていきたい。

(d)改善策

- ①そろそろ年間を通した学習過程を考えて実行する時期かと考えました。
- ②生物育成の畑づくりをぜひ施設として設置し、生産者の気持ちを理解させていきたい。

令和2年度生徒授業評価 中3家庭 南高校附属中学校

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について	授業に必要な用具の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	121	32	1	2	156	98.1%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	121	33	1	1	156	98.7%
3		授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	116	37	3		156	98.1%
4	授業や先生について	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	135	20		1	156	99.4%
5		生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	136	17	1	2	156	98.1%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	131	20	4	1	156	96.8%
7		発問や説明は適切である。	128	24	3	1	156	97.4%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	128	24	1	2	155	98.1%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	124	25	5	2	156	95.5%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	114	28	9	1	152	93.4%

<授業評価を受けて>

<p>(a) 取り組み</p> <p>○多くの中学生にとって、あまり親しみのない幼児の生活について学習するにあたり、自分自身の振り返りや家族のことなど、身近なことからアプローチし、取り組みやすくなるよう工夫した。</p> <p>○毎年行っている保育園児との交流ができなかった時間は、授業の展開に余裕を取ることに活用した。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症への感染予防から、おやつに関する実習内容を工夫した。</p> <p>(b) 成果</p> <p>○保育園児との交流ができなかった分、授業の展開に余裕をもたせたことで、生徒たちは一つひとつの課題に落ち着いて取り組み、保育園児との交流は持てなかったものの幼児の発達や生活の様子に興味を持たせることができた。</p> <p>○おやつ作りを個人作業としたり、おやつの食べ比べなど、新しい授業内容を取り入れることができた。</p> <p>(c) 課題</p> <p>○幼児とのふれあいだけでなく、日常生活における生活体験が不足がちの生徒にとって、多くの実習を取り入れた授業展開は、欠かすことができないものであるが、現状では厳しいものがある。</p> <p>(d) 改善策</p> <p>○ビデオ教材や感染症の影響を受けないところの講演会等々、保育園児との交流等に代わる教材等を工夫していく。</p>

令和2年度生徒授業評価 中3英語 南高校附属中学校

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標
1	自分自身について	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	73	70	9	5	157	91.1%
2		主体的、積極的に授業に参加している。	114	40	3		157	98.1%
3		授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	108	41	7		156	95.5%
4	授業や先生について	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	131	22	4		157	97.5%
5		生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	135	20	1	1	157	98.7%
6		学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	130	21	3	1	155	97.4%
7		発問や説明は適切である。	126	26	3	1	156	97.4%
8		板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	125	24	6	2	157	94.9%
9		公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	132	21	3	1	157	97.5%
10		授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	122	25			147	100.0%

<授業評価を受けて>

<p>(a) 取り組み</p> <p>①昨年度に引き続き、手法を変えながら教科書の本文に繰り返し触れるラウンド制の方法を通して、基礎となる英語の語彙、表現、文法などが自然に身につくように授業を行った。また、家庭学習については折に触れその重要性を話したり、こまめに提出日を設けたりするなどして継続的に学習できるよう工夫をした。</p> <p>②教科書以外の英語に触れる機会を授業の中に定期的に設け、生徒が速読して推測しながら意味をとる力や新しい分野の語彙を理解し、自分の表現に活かすことを目指した。</p>
<p>(b) 成果</p> <p>①昨年度(2年生)と比べると、自分自身に関する項目、特に家庭学習に関する項目において肯定的な評価をする生徒が大幅に増加した。(84%→91%)</p> <p>②異なるジャンルのトピックの英文を読むことで、教科書では扱われていない語彙や表現に、自然な英文の中で触れることができ、生徒の理解力や語彙力の向上につなげることができた。またその題材を使っただけの会話や音読などを通して、自分の考えを伝える練習にもなった。</p>
<p>(c) 課題</p> <p>①すべての項目が昨年度と比べて向上しているものの、主に授業や先生についての項目で否定的な評価をしている生徒も数人存在する。</p>
<p>(d) 改善策</p> <p>①日々、生徒自身がラウンドシステムやその他活動の意義をより実感できるような指導計画を立てる。また、分かりやすい発問をさらに磨くため、他の職員と授業を見合うなど研修の機会を計画的に設ける。</p>

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	合計	70%目標
1	教育活動等について	学級で良好な人間関係を築いている。	113	36	5	1	3	158	96.1%
2		生徒会活動や委員会活動を主体的に行っている。	68	51	14	8	16	158	84.4%
3		先生は生徒の不安や悩み事などについて親身になって相談にのっている。	73	49	9	3	23	158	91.0%
4		南高校附属中学校はいじめや差別を許さない環境作りに努めている。	105	44	2	2	5	158	97.4%
5		南高校附属中学校は生徒の健康管理について適切な指導をしている。	105	38	6	5	4	158	92.9%
6		南高校附属中学校は資源リサイクルや環境美化について積極的に取り組んでいる。	69	50	7	1	31	158	93.7%
7	学校生活等について	南高校附属中学校の生徒であることに誇りを感じている。	122	30	3	1	1	158	97.4%
8		南高校附属中学校の施設・設備面の教育環境が充実している。	138	17	1	1	1	158	98.7%
9		南高校附属中学校は生徒の個人情報を適切に管理している。	108	21	1	2	26	158	97.7%
10		災害時の校内の避難経路を把握している。	68	53	23	8	5	158	79.6%
11		南高校附属中学校は学校ホームページや学年便りなどを活用し、必要な情報を提供している。	105	37	3	1	11	157	97.3%

<学校評価を受けて>

<p>(a) 取り組み</p> <p>・2020年度は、1年生にとってはじめての中学校生活、中高一貫校の初年度、コロナ感染予防対策による休校期間、など不安要素が重なった。その不安要素を少しでも取り除こうと、休校期間中の動画やさまざまな活動の前にガイダンスを充実させた。</p> <p>・生徒どうしの人間関係構築のきっかけのひとつとして、例年行っているPAAやコミュニケーション研修、エンカウンター研修を、コロナ感染予防対策下で可能な範囲で工夫して行った。</p> <p>・生徒と教員との信頼関係を築くために、なるべく2階フロアに教員が滞在し、声かけを進んで行った。また、養護教諭や授業担当の先生からの情報をもとに、生徒の変化をなるべく早く察知して、教育相談をこまめに行った。課題を抱える生徒については養護教諭、SC、SSW、保護者と連絡を密に取りながら、学年職員が情報を共有して、同じ方針で生徒指導にあたっている。</p> <p>・コロナ感染予防対策下で、限られた範囲及び回数で、生徒たちが主催する学年集会を実施し、主体的な生徒会活動を経験させようとしている。</p>
<p>(b) 成果</p> <p>・9期生の中学校生活のスタートは、職員が目指しているものと、生徒たち自身の評価とがおおむねかみあっていると考えられる。(項目1、3、4、7)</p>
<p>(c) 課題</p> <p>①項目2、6について「わからない」と評価した生徒が少なからずいる。実際に生徒会活動や、清掃活動(ごみ捨て)の場面が今年度少なかったからと考えられる。</p> <p>②項目3について「わからない」と評価した生徒が少なからずいる。まだそのような場面に遭遇していないからとも考えられる。</p> <p>③項目9について避難経路の把握ができていないことが見て取れる。実際に避難訓練があったにもかかわらずなので、確実な把握が必要である。</p>
<p>(d) 改善策</p> <p>①項目2、6について、生徒会企画などが学級に下ろされたときなどを利用しながら、「生徒会活動とは」という基本的な考え方を定着させていく。また各種委員会活動の報告も、教員からの一言を添えながら行っていく。可能な範囲で生徒の活動を計画していく。</p> <p>②項目3について、生徒がそのような場面に遭遇しているときには、これまでの取り組みを継続して行っていく。</p> <p>③項目9について、避難経路の把握は、学級ですぐに確認をする。</p>

令和2年度生徒学校評価 【2年生】 南高等学校附属中学校

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	合計	70%目標
1	教育活動等について	学級で良好な人間関係を築いている。	101	39	6	1	4	151	95.2%
2		生徒会活動や委員会活動を主体的に行っている。	68	41	20	8	13	150	79.6%
3		先生は生徒の不安や悩み事などについて親身になって相談にのっている。	79	41	8	3	20	151	91.6%
4		南高校附属中学校はいじめや差別を許さない環境作りに努めている。	71	50	8	8	14	151	88.3%
5		南高校附属中学校は生徒の健康管理について適切な指導をしている。	91	42	8	4	6	151	91.7%
6		南高校附属中学校は資源リサイクルや環境美化について積極的に取り組んでいる。	80	45	6	3	17	151	93.3%
7	学校生活等について	南高校附属中学校の生徒であることに誇りを感じている。	102	37	9	2	1	151	92.7%
8		南高校附属中学校の施設・設備面の教育環境が充実している。	130	18	2	1		151	98.0%
9		南高校附属中学校は生徒の個人情報を適切に管理している。	106	22	4		19	151	97.0%
10		災害時の校内の避難経路を把握している。	53	62	27	4	5	151	78.8%
11		南高校附属中学校は学校ホームページや学年便りなどを活用し、必要な情報を提供している。	91	42	4	3	11	151	95.0%

<学校評価を受けて>

(a) 取り組み

- ① 面談や教育相談を通年で継続的に行うとともに、日常的な関わりや各種アンケートなどを通して、生徒一人ひとりの状況の把握に努め、職員間で情報を共有した。(項目1、3、4)
- ② 学活の時間を活用して、生徒主体のレクリエーション活動を積極的に行い、学級や学年の親睦を深めた。(項目1、2)
- ③ 学習習慣や生活習慣の改善を促すため、学年集会での啓発や「わたしの週プラン」などを活用した生活指導に取り組んだ。(項目5)
- ④ 学年だよりや学級通信などを定期的に発行し、学校生活の様子などが家庭に伝わるよう情報を発信した。(項目9、11)

(b) 成果

- ① 1年次の評価と比較して、項目1が93.8%→95.2%、項目3が85.1%→91.6%、項目4が84.2%→88.3%にそれぞれ向上した。
- ② 新型コロナウイルス感染症の影響で各種行事が中止、縮小となる中、学年でレクリエーション集会を企画し、生徒が主体的に楽しく活動できる場面をつくることができた。
- ③ 項目5の質問に「そう思う」「ややそう思う」が90%を超え、日々の生活習慣の改善を促すことができた。
- ④ 各種たよりを通して、本校の取り組みや学校生活の様子などを、生徒と保護者により詳しく知ってもらうことができた。

(c) 課題

- ① 項目2の評価が1年次と比較して、89.8%→79.6%に低下している。
- ② 項目10が他の項目と比較してやや低い。
- ③ 項目4「南高校附属中学校はいじめや差別を許さない環境作りに努めている」の質問に「あまりそう思わない」「そう思わない」や「わからない」と回答している生徒が一定数いる。

(d) 改善策

- ① 項目2の評価の低下は、各種行事が中止、縮小となっていることがおもな理由であると考えられる。実施可能な範囲で、生徒が主体的に活動できる場面をつくっていきたい。
- ② 避難経路について再度、各学級で周知する。
- ③ 道徳、学活、集会、休み時間など、学校生活における様々な機会を捉え、いじめや差別を許さない毅然とした態度や考え方を、くり返し生徒に伝えていく。

令和2年度生徒学校評価 【3年生】 南高等学校附属中学校

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	合計	70%目標
1	教育活動等について	学級で良好な人間関係を築いている。	111	36	8	1	2	158	94.2%
2		生徒会活動や委員会活動を主体的に行っている。	81	39	21	12	5	158	78.4%
3		先生は生徒の不安や悩み事などについて親身になって相談にのっている。	88	49	8	2	11	158	93.2%
4		南高校附属中学校はいじめや差別を許さない環境作りに努めている。	87	58	7	1	5	158	94.8%
5		南高校附属中学校は生徒の健康管理について適切な指導をしている。	92	55	3	1	7	158	97.4%
6		南高校附属中学校は資源リサイクルや環境美化について積極的に取り組んでいる。	93	44	7	1	13	158	94.5%
7	学校生活等について	南高校附属中学校の生徒であることに誇りを感じている。	103	47	6	1	1	158	95.5%
8		南高校附属中学校の施設・設備面の教育環境が充実している。	132	21	2	2	1	158	97.5%
9		南高校附属中学校は生徒の個人情報適切に管理している。	115	21	2	1	19	158	97.8%
10		災害時の校内の避難経路を把握している。	104	45	6	1	2	158	95.5%
11		南高校附属中学校は学校ホームページや学年便りなどを活用し、必要な情報を提供している。	108	34	1	1	13	157	98.6%

<学校評価を受けて>

(a) 取り組み

- ①生徒が安心して学校生活を送れるよう、全職員で生徒を見守り、いじめアンケートやQUの結果分析など情報を共有した。さらに、養護教諭やスクールカウンセラーとも連携して多角的な生徒理解に努めた。(項目1・3・4)
- ②コロナ禍の制限の中、体育祭や文化祭など中学校最後のクラスでの取り組みを可能な限り探り、達成感をもてるよう支援した。また、生徒が企画する学年集会等の機会を増やした。(項目2・7)
- ③学習については、課題の提出期限を守ったり、週プランを活用した家庭学習など基本的な学習習慣を身につけさせる指導をした上で、補習や再テスト、試験の解き直しなどで学習内容が定着するようにした。さらに「進路通信」を発行して、将来の進路を見据えながら主体的に学習に取り組めるよう支援した。(項目7)
- ④防災訓練時はもとより日常生活の中でも避難経路の確認をする機会を増やした。(項目10)

(b) 成果

- ①生徒に関して職員が情報共有することで、迅速に生徒指導に当たることができ、生徒および保護者との信頼関係を築くことができた。
- ②感染症対策など安全に配慮しつつ生徒たちはさまざまな行事に取り組んだ。その中で、クラスとしてのまとまりや、集団における個の役割などを自覚し、自他の個性の違いなどを認め合いながら、達成感を得ることができた。
- ③日頃の学習はもとより、総合的な学習における卒業研究の取り組みなど、生徒が自ら課題を見つけて主体的に学習することができた。
- ④避難経路の把握については毎年他と比べて数値が低いが、15ポイント上昇した。ほとんどの生徒が避難経路を確認することができたと思われる。

(c) 課題

ほとんどの項目について2年次よりも評価が上がっている。項目2については、生徒は冷静に受け止めているとはいえ、コロナ禍で行事の規模の縮小や実施形態の変更が余儀なくされたことも影響していると考えられる。今後も、中高一貫教育校の中学3年生として力を発揮する場面と、高校生のリーダーシップのもと活動する場面の両面から活動の機会を設ける必要があると考える。項目6「資源リサイクルや環境美化」、項目9「個人情報の管理」、項目11「南高校附属中学校は学校ホームページや学年便りなどを活用し、必要な情報を提供している」に関して「わからない」と答えた生徒が10名以上いる点が課題である。

(d) 改善策

学校全体の行事では、高校生のリーダーシップのもと中高の繋がりを意識した行事と、今年度の体育祭のように中学校のみの行事で柔軟に対応していく。また、学年集会や卒業に向けての行事を可能な範囲で企画し、その運営を生徒に任せるようにする。項目6、9、11に関しては、これからも機会あるごとに情直活動をしていくことが改善につながると考える。

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	合計	70%目標
1	教育活動等について	中高一貫校として特色ある教育活動など、適切な取り組みをしている。	94	46	8	0	5	153	94.6%
2		南高校附属中学校の教育課程は充実したものにしている。	97	48	4	1	3	153	96.7%
3		お子さんは学級で良好な人間関係を築き、充実した生活を送っている。	94	48	6	2	3	153	94.7%
4		学校行事や生徒会活動は充実し、お子さんは積極的に参加している。	67	58	22	3	3	153	83.3%
5		生活習慣や規範意識を身につけさせるための適切な指導が行われている。	75	55	13	1	9	153	90.3%
6	学校生活等について	生徒の健康管理に関する適切な指導が行われている。	58	69	15	1	10	153	88.8%
7		校内の環境美化に力を入れ、教育環境がきちんと管理されている。	66	66	5	1	15	153	95.7%
8		各種会計報告が適切に行われている。	92	47	3	0	11	153	97.9%
9		学校の様子を家庭への配布資料や学校ホームページなどを通じて十分かつ適切に伝えている。	87	51	11	4	0	153	90.2%

＜学校評価を受けて＞

(a) 取り組み

・コロナ感染予防対策をしながらの中学1年生のスタートだった。この状況の中で、中学校生活の不安や心配が少しでも取り除けるように、学習面、生活面などさまざまな場面でのガイダンスを生徒たちに丁寧に行った。附属中学校の特色と考えられる要素(EGG体験、EGGゼミ、学習への取り組み方)を、この状況でもなるべく生徒が実感できるように、精選したり工夫したりして計画・実施した。
 ・学習面や生活面、友人関係での課題などの日々の指導を、学年職員および保護者の方と連携し、情報とねらいの共有を常に確認しながら行った。

(b) 成果

・生徒たちへのガイダンスを丁寧に行ったことにより、保護者の方々に、附属中学校の特色ある教育活動、教育課程、学校での人間関係づくりについてご理解いただいていると考えられる。(項目1, 2, 3)
 ・日々の生活面などの指導を、学年職員および保護者の方と連携しながら行っていることにより、校内の生活習慣づくりについて、保護者の方々にもご理解いただいていると考えられる。(項目5)
 ・この学校評価の回収率から、学校の教育活動への関心の高さがうかがえる。(合計欄)

(c) 課題

①コロナ感染予防として生徒たちの安全の確保を第一に考慮したため、生徒たち自身が実感するほどには、学校行事や生徒会活動を十分に行うことができなかった。そのなかでも、形を変えながら行った体育祭や、南高祭、PAAなど実施できたものについては一定の評価をいただいていると考えられる。(項目4)
 ②健康管理については、コロナ感染予防のさらなる指導が求められていると考えられる。(項目6)
 ③いくつかの項目で「わからない」の回答が重なった。(項目5, 6, 7, 8)学校から保護者の方々に直接話をする場面や、保護者の

(d) 改善策

①感染予防の可能な範囲で、学年集会や学級レクなどを、さらに生徒たち自身で計画・運営していく場面を確保していく。各種委員会後や生徒会企画が学級におろされた時に、「生徒会活動とは」という根底の考え方をしっかり耕していく。
 ②今後も換気や、手洗いおよび手指消毒の指導を継続していく。公共交通機関内での過ごし方についての指導も継続していく。
 ③保護者の方々への広報として、すでに発行されている便り等が確実に手元に届くように指導を継続していく。附属中日記の更新をこまめに行う。

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	合計	70%目標
1	教育活動等について	中高一貫校として特色ある教育活動など、適切な取り組みをしている。	79	51	4	0	3	137	97.0%
2		南高校附属中学校の教育課程は充実したものになっている。	75	52	6	0	4	137	95.5%
3		お子さんは学級で良好な人間関係を築き、充実した生活を送っている。	81	45	9	1	1	137	92.6%
4		学校行事や生徒会活動は充実し、お子さんは積極的に参加している。	56	56	20	2	3	137	83.6%
5		生活習慣や規範意識を身につけさせるための適切な指導が行われている。	53	66	10	2	6	137	90.8%
6	学校生活等について	生徒の健康管理に関する適切な指導が行われている。	52	66	12	1	6	137	90.1%
7		校内の環境美化に力を入れ、教育環境がきちんと管理されている。	70	53	4	1	9	137	96.1%
8		各種会計報告が適切に行われている。	103	23	4	0	7	137	96.9%
9		学校生活の様子を家庭への配布資料や学校ホームページなどを通じて十分かつ適切に伝えている。	63	62	8	2	2	137	92.6%

<学校評価を受けて>

(a) 取り組み

- ①今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、例年実施している中高合同の各種行事や、夏休みの「英語集中研修」「選択EGG講座」などを実施することができなかった。一方、各教科等の教育活動については、感染対策に配慮しつつ、ほとんどの教科で例年並みの活動ができていた状況である。(項目1、2)
- ②面談や教育相談を年間を通じて継続的に行うとともに、日常的な関わりや各種アンケートなどを通して、生徒一人ひとりの状況の把握に努め、職員間で情報を共有した。また、学習習慣や生活習慣の改善を促すため、学年集会での啓発や「わたしの週プラン」などを活用した生活指導に取り組んだ。(項目3、5、6)
- ③学活の時間を活用して、生徒主体のレクリエーション活動を積極的にを行い、学級や学年の親睦を深めた。(項目3)
- ④学年だよりや学級通信などを定期的に発行し、学校生活の様子などが家庭に伝わるよう情報を発信した。(項目9)

(b) 成果

- ①本校の特色ある教育活動については、例年通り実施できなかった部分も多いが、各教科等の取り組みを通して、今年度の教育活動について、一定の評価とご理解をいただくことができた。
- ②学校での人間関係づくりや生活指導に関する肯定的な評価は、いずれも90%以上となっており、1年次から継続して行っている6年間を見通した学校生活の土台づくりについて、高い評価を得た。
- ③各種行事が中止、縮小となる中、学年でレクリエーション集会を企画し、生徒が主体的に楽しく活動できる場面をつくることができた。
- ④各種たよりを通して、本校の取り組みや学校生活の様子などを、生徒と保護者により詳しく知ってもらうことができた。

(c) 課題

- ①項目4の評価が1年次と比較して、96.4%→83.6%に低下している。
- ②面談や教育相談等で寄せられる心配事としては、生徒・保護者ともに、学習面に関することが最も多い。学習面で課題を抱えている生徒を、学年としてどのように支援していくかが課題である。

(d) 改善策

- ①項目4の評価の低下は、各種行事が中止、縮小となっていることがおもな理由であると考えられる。実施可能な範囲で、生徒が主体的に活動できる場面をつかっていきたい。
- ②各種テストの結果等を分析して生徒の学習状況を学年職員で共有し、チームで支援する体制をつくる。学習面で課題を抱えている生徒に対しては、必要に応じて補習や教育相談等を行う。また、学年集会での啓発や「わたしの週プラン」の活用など、学習習慣や生活習慣の改善を促すための指導を継続して行っていく。

番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	合計	70%目標
1	教育活動等について	中高一貫校として特色ある教育活動など、適切な取り組みをしている。	78	55	3	0	0	136	97.8%
2		南高校附属中学校の教育課程は充実したものになっている。	74	58	4	0	0	136	97.1%
3		お子さんは学級で良好な人間関係を築き、充実した生活を送っている。	81	42	9	0	4	136	93.2%
4		学校行事や生徒会活動は充実し、お子さんは積極的に参加している。	57	56	18	2	3	136	85.0%
5		生活習慣や規範意識を身につけさせるための適切な指導が行われている。	60	65	8	0	3	136	94.0%
6	学校生活等について	生徒の健康管理に関する適切な指導が行われている。	63	56	11	1	5	136	90.8%
7		校内の環境美化に力を入れ、教育環境がきちんと管理されている。	75	54	1	0	6	136	99.2%
8		各種会計報告が適切に行われている。	103	27	0	0	6	136	100.0%
9		学校生活の様子を家庭への配布資料や学校ホームページなどを通じて十分かつ適切に伝えている。	79	50	5	0	2	136	96.3%

<学校評価を受けて>

(a) 取り組み

- ①学習においては、1年次から積み上げてきた総合的な学習の集大成として、自分で決めたテーマについて調べ学習を行い、卒業論文を作成した。また、中高の教員によって(チームティーチング)で授業を担当する教科を設定している。(項目1・2)
- ②日頃から生徒とコミュニケーションを取り、生徒が安心して学校生活を送れるよう支援すると共に、職員間や保護者とも連携して、生徒理解に努めている。(項目3)
- ③学校行事は中高合同で開催し、高校生企画・運営のものと共に活動する場面と、最高学年として中学生全体をリードする場面を設けた。(項目1・4)
- ④学校だよりや学級通信、ホームページ等を通じて、学校の情報や生徒の活動の様子などを発信した。(項目9)

(b) 成果

- ①行事を中高合同開催(今年度は文化祭のみ)することにより、高校生が中心ではあるが、生徒が主体的に行事を運営する場面が多くなっている。授業でも高校の先生とのチームティーチングにより、高校での学習に興味をもつことができた。総合的な学習の集大成として、自分で決めた卒業研究のテーマについて、1・2年次に得たスキルを使って調べ学習を行い、卒業論文を作成するという取り組みが、保護者にも理解されていると感じる。
- ②教育相談や個人面談に限らず、日頃から生徒とコミュニケーションを取り、職員全体で生徒を見守る体制を作り、保護者との信頼関係を構築した。
- ③開催が中止になったり、縮小された行事もあったが、高校との合同開催によってスケールの大きい行事を開催することができていた。特に中高別開催となった体育祭では、最高学年として中学生をまとめ企画・運営にあたった他、応援で盛り上げるなどリーダーシップを発揮することができた。
- ④学年だよりやホームページの附属中日記、学級通信、授業参観・懇談会での情報発信によって、生徒の学習や生活の様子を保護者に伝えることができた。

(c) 課題

- すべての項目が目標値に達しており、附属中学校の取り組みをご理解いただいていると思われるが、次の点が課題である。
- ①学校行事や生徒会活動への取り組み(項目4)の数値が昨年より下がった。コロナ禍の影響で、行事の縮小や参加形態の変更を余儀なくされたこともあるが、行事以外の場面で高校と連携する場面が少ないという課題がある。
- ②項目6の生徒の健康管理については、コロナ対策の点からも充分な注意を払ってさまざまな場面に対処していく必要がある。
- ③コロナ対策に限定せず、今後はオンラインによる授業や研修の機会を確保する必要がある。

(d) 改善策

- ①コロナ禍の影響で、今年度は合唱コンクールが中止となり、文化祭も縮小された。また、体育祭は中高別開催となった。体育祭については結果的に3年生が中学生をまとめる立場になり、自信に繋がった。今後も中高合同開催行事の中でも、中学生をまとめる場面を設けて、最高学年としての自覚を育てていく。
- ②健康管理は、コロナ感染防止に限らず、これからも換気や手指消毒を継続していく。
- ③メール配信やYouTube、ロイロノートの活用などを通じて実現していく。

令和2年度 地域による学校評価

項目	No.	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	そう思う・ややそう思う	令和元年度
教育活動	1	学校は地域の人材や施設を教育活動に活かしている。	10.5%	15.8%	19.3%	10.5%	43.9%	26.3%	34.4%
	2	学校は文化祭等の学校行事を通して、地域から信頼される学校を目指している。	22.8%	40.4%	8.8%	8.8%	19.3%	63.2%	46.9%
生徒の様子	3	学校生活が楽しそうで、生き生きとしている様子の生徒が多く見られる。	36.8%	33.3%	7.0%	3.5%	19.3%	70.2%	75.6%
	4	生徒は登下校の際のマナーが身に付いている。	19.3%	31.6%	17.5%	10.5%	21.1%	50.9%	37.0%
	5	生徒は近隣に迷惑にならないような行動を心がけている。	21.1%	33.3%	10.5%	7.0%	28.1%	54.4%	46.3%
地域貢献等	6	学校は地域の活動や行事によく協力している。	7.0%	17.5%	26.3%	14.0%	35.1%	24.6%	31.8%
	7	学校は校舎・グラウンド等の近隣に接している所も清掃し、環境美化に努めている。	24.6%	21.1%	14.0%	10.5%	29.8%	45.6%	46.3%
	8	生徒は社会貢献（地域清掃や地域のボランティア等の取組）の活動により地域に貢献している。	8.8%	15.8%	14.0%	17.5%	43.9%	24.6%	29.5%
	9	学校は地域に向けて学校情報の提供をしている。	10.5%	19.3%	24.6%	7.0%	38.6%	29.8%	41.5%

令和2年度 職員学校評価 南高等学校附属中学校

		項目	十分に	おおむね	あまり	全く	判断 出来ない	無回答	合計	70%目標	R1年度		
1	教育活動	第3期教育振興基本計画	魅力ある学校づくりに向けて学校全体として取り組んでいる。	6	15	0	0	1	0	22	95.5%	87.5%	
2		教育課程	編成	学校教育目標・学校経営目標を踏まえて編成されている。	6	16	0	0	0	22	100.0%	91.7%	
3			取組	学習指導要領の趣旨及び横浜市の方針に基づき、さらに中期学校経営方針に掲げた目標の実現を目指して編成し、取り組んでいる。	7	15	0	0	0	22	100.0%	95.8%	
4		教科指導	指導計画	学校教育目標・重点目標の実現に向け適切な計画を作成している。	7	15	0	0	0	22	100.0%	95.8%	
5			取組	私の所属している教科は生徒の実態に応じて、指導内容や指導方法を工夫してわかりやすい授業を行っている。	6	15	0	0	1	0	22	95.5%	100.0%
6			評価評定	観点別評価規準を明確にした年間計画を立て、それに基づき適切な方法で評価・評定を行っている。	8	12	1	0	1	0	22	90.9%	83.3%
7		特別活動 部活動	取組	生徒の主体的、自立的な生徒会活動の活性化に向けて適切に指導している。	5	16	1	0	0	22	95.5%	95.7%	
8		学級活動	生徒が人間関係を円滑に結び、充実した学校生活を送ることができるよう基礎的な生活集団の形成に資する学級経営を行うことができている。	4	16	1	0	1	0	22	90.9%	95.8%	
9		生徒指導	生徒の生活習慣の確立や規範意識の形成に向けて、適切な指導を行っている。	4	17	1	0	0	0	22	95.5%	87.5%	
10		保健指導	学校保健計画に沿って生徒の健康管理を適切に行い、また生徒の健康に対する意識を喚起している。	8	13	1	0	0	0	22	95.5%	95.8%	
11		環境美化	資源リサイクル等省エネ行動に学校として適切に取り組んでいる。	6	10	4	1	1	0	22	72.7%	58.3%	
12	学校経営	学校教育目標	学校教育目標の実現に向け、全教職員が取り組んでいる。	5	16	0	0	1	0	22	95.5%	100.0%	
13		学校経営方針	学校経営方針に基づき、教職員が協力して円滑な学校経営がなされている。	6	15	0	0	1	0	22	95.5%	91.7%	
14		職員組織 (校務分掌も含む)	一人ひとりの教職員が意欲をもって業務に取り組むことができる組織である。	7	13	2	0	0	0	22	90.9%	100.0%	
15		学年経営	各学年の運営は、情報が共有され組織的取組が円滑に行なわれている。	9	13	0	0	0	0	22	100.0%	91.7%	
16		職員会議等	会議は効率的に運営されており、教育活動や学校運営の計画等の共通理解が図られる場となっている。	5	14	2	1	0	0	22	86.4%	58.3%	
17		研究・研修	教職員が互いに研鑽し、力量を高めることができるように、校内の研究・研修体制が整えられている。	3	15	4	0	0	0	22	81.8%	79.2%	
18		学校 経 理	予算編成	予算委員会などの組織を設けて、予算が適切に立てられている。	12	9	0	0	1	0	22	95.5%	95.8%
19			会計報告	公金、準公金ともに透明性が確保され、保護者や市民に対する説明責任を果たしている。	13	7	1	0	1	0	22	90.9%	95.8%
20		学校施設設備	教室、特別教室、体育施設等は学習や生活がしやすいように管理が適切になされている。	6	15	1	0	0	0	22	95.5%	83.3%	
21		情報管理	個人情報の管理が適切である。	6	15	0	0	1	0	22	95.5%	91.7%	
22		保護者・地 域等との 連携協 力	PTA活動	PTAとの連携・協力の推進が図られている。	5	14	1	0	2	0	22	86.4%	87.5%
23			地域等との 連携協力	学校の教育活動の情報提供・説明が十分になされ、活動に対する理解が得られている。	5	15	2	0	0	0	22	90.9%	91.7%
24		危機 管理	安全対策	学校安全計画に沿って適正に実施されている。	6	15	1	0	0	0	22	95.5%	87.5%
25			防災対策	学校防災計画に沿って、緊急避難場所や避難経路・避難方法等の周知徹底がなされている。	4	17	1	0	0	0	22	95.5%	79.2%
26	情報公開	募集に関する学校説明会や学校情報に関する広報活動が適切に行われている。	11	11	0	0	0	0	22	100.0%	100.0%		
26	いじめの対応	いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止や早期発見、早期解決に組織的に取り組んでいる。	8	14	0	0	0	0	22	100.0%	95.8%		

令和 2 年度
横浜市立高等学校
及び
併設型中学校
学校関係者評価書

対象校：横浜市立南高等学校附属中学校

調査全体の日程

調査日：令和2年10月1日 ～ 令和3年3月31日

調査対象校：横浜市立南高等学校

横浜市立南高等学校附属中学校

調査チーム：横浜市立南高等学校・南高等学校附属中学校 学校運営協議会

リーダー：高木 展郎（横浜国立大学教育学部名誉教授）

記録等担当者：藤森 潤子（横浜市立南高等学校附属中学校 副校長）

1 第3期横浜市教育振興基本計画の推進状況

□魅力ある高校教育の推進状況について

中高一貫教育校として、6年間を見通したカリキュラム編成を行い、中学校では令和3年度からの新学習指導要領に対応した教育課程の編成を行い、高等学校では令和4年度からの新学習指導要領に対応した教育課程の編成への準備を行おうとしている。

横浜市教育委員会より指定された進学指導重点校として、単に大学への進学のみには焦点化しての指導ではなく、教育課程の中で、大学・企業・専門機関等と連携をした、生徒の将来への見通しを基にした進路指導の充実が図られている。

特に、グローバル人材の育成として、教育課程上における「総合的な探究の時間（TRY&ACT）」を活用し、生徒一人一人の課題に基づいた研究を行っていることは、高く評価できる。

しかし、学校の取り組みは、これからの日本の学校教育のあり方に基づいた進路指導を行っているが、保護者の進路志望は大学入試のみを対象としたものになっている面も無いとは言えない状況にあり、日常の学校における授業を通して資質・能力の育成を図ることへの理解を深めることに関して機会を捉えて行い、適切に効果的に発信することを目指していることも評価できる。

2 教育活動の状況

□進路指導の状況について

進路に関する情報を進路ガイダンスや進路講演会によって提供しており、適切な情報提供がされていることが認められる。また、生徒一人一人に対してもきめ細やかな指導が職員によって年間の各機会を捉え行われおり、充実している。

さらに、面談においては、これまでのデータを活用し具体的な進路相談が行われており、生徒に進路に対しての具体的なイメージを持たせることも行われている。

課題として、学業成績があまり芳しくない生徒に対しての指導がより一層求められ、その原因追及も必要と考えられる。

□学習指導の状況について

中高一貫教育校として、中学校と高等学校との連携が経年的に深まりつつある。これまで中学校における授業満足度が高かった傾向が認められたが、本年度は、高等学校の各教科においても生徒の授業に対する満足度が高くなっていることが認められるようになった。

このことは、生徒の授業評価の項目内容が「自分自身について」と生徒自身の自省を問うとともに、「授業や先生について」の項目により、生徒の授業に対する想いが、授業を行う教師に受け止められ、授業改善の具体が見えやすくなったことにも起因すると考えられる。

生徒による授業評価は、一般的に生徒の感覚的なものに陥りやすい傾向があるが、南高等学校及び附属中学校の生徒による授業評価は授業の具体に踏み込んだものとなっており、この授業評価による授業づくりが今後も求められる。

□教育課程の状況について

南高等学校と同附属中学校の教育課程の特色は、先にも述べたが、「総合的な探究の時間（TRY&ACT）」にある。附属中学校からの総合的な学習が、高等学校での総合的な学習に継続されており、生徒の発達段階における問題や課題を生徒自身が解決する学習が継続的に教育課程として組織されており、この学習が、南高等学校と同附属中学校の生徒の資質・能力の向上に非常に役立っている。

また、本年度は、COVID-19により休校時期もあったが、特別活動としての行事等が行えない状況もあったが、授業時間はきちんと確保されており、教育課程として行われなければならない時数と内容とは、着実に行われていた。

□学校生活の状況について

本校の特色として、学校行事等を通して全生徒が協働・協力の意識を育成することや、学習活動を含め充実した学校生活を送れる環境が整えられていることがあげられる。ここから、本校の生徒としての誇りや自己肯定感を持てるよう、指導も行われている。

一方、校内生活や環境が整えられているため、他校との違いに気づかずいることもあり、海外大学支援プログラム ATOP や課題研究発表会等の実施を通し、他校の生徒との交流の機会を持つことで、様々な考えや見方、意見があることを理解させることができている。このような体験を通し、自らが自分の考えを適切に発信することができるような取り組みが行われていることは、高く評価できる。このような取り組みは、これまでの日本の学校教育で行ってきたコンテンツベースの学力のみでは無いコンピテンシーベースの資質・能力の育成を図るものであり、これからの日本の学校教育で育成しなければならないものとして重要なものである。

このような取り組みを通すことにより、学校全体が活性化し、生徒の参画意識が高まり、愛校心を持つようになる教育が行われていることが認められる。

3 学校経営の状況

□組織運営及び教職員研修の状況について

令和元年度から行われている学校のグランドデザイン作成も、附属中学校と協働して行われており、校内授業研究会がテーマ「グランドデザインにより～中高6カ年を通じ重点化して育成を目指す資質・能力を之罰授業の研究」を各教科で行っていることは、本校の授業づくりの基盤となり、中高一貫教育の一層の深まりと広がりを行う基礎となる。それぞれの攻守が、その特性を生かしつつ、協働して6年間の授業づくりを行うことは、中等教育としての教育の方向性を明確にすることのできる機会でもある。

されに、令和3年度からは、中学校と高等学校の校務分掌や委員会組織も連携を図ることを目指しており、その成果が期待される。このことにより、学校全体がより一層活性化が図られることも期待している。

4 いじめへの対応に関する項目

□いじめへの対応について

人が集団で生活する以上、様々なトラブルは発生する。学校においても同様で、いじめはあつてはならないが、集団生活をする以上、どうしても派生することがある。それに対する対応としての取り組みは、面談と情報交換が行われており、いじめの早期発見と未然防止の学校の取り組みが生徒や保護者の受け止め方にも理解されていることが認められる。今後の課題として、このような取り組みの周知と理解を図ることが求められる。また、人権教育の質を高めると同時に、学校と家庭との関係をより綿密にすることも重要となる。

5 総評

南高等学校、同附属中学校が中高一貫校として開設されてから10年たちました。開校当初は、中学校と高等学校との学校設置の違いもあり、それぞれの校種が独立していた感じもあり、一貫校としての教育課程上の連携も弱い面もあったと感じられた。しかし、近年には、中高一貫の教育課程も行われつつあり、6年間を通した教育成果も現れつつある。また、授業において校種を超えた交流も図られるようになったことは、生徒にとっても中高一貫教育校が図られていることを実感できる学校体制が整備されてきたと言える。今後、この一貫校に向けた体制と、それに伴う教育課程を6年間通したものとしていくことが強く望まれる。

このことは、南高等学校、同附属中学校の教職員が、中高分け隔て無く同じベクトルで教育活動を行うことから、チーム学校としての機能が果たせるようになることが、求められているからでもある。生徒は、南高等学校附属中学校と南高等学校での教育を求めて入学してくる。それは、そこでの教育や授業に期待しているからである。その生徒の要望に応えるため、教師一人一人が、南高等学校、同附属中学校としての授業を行うことが重要となる。生徒は教師を選べない。どの教師に習っても、南高等学校、同附属中学校の授業を生徒に提供することが重要となる。

そのためには、各教科で中高の一貫した教育課程の編成はもちろんのこと、各授業においてどの先生に習っても育成される資質・能力は、同じもので無ければならないことになるし、それを目指して、研修が行われなくてはならない。

そのことは、既に「総合的な探究の時間（TRY&ACT）」で行われていることであり、各教科における授業においても、この考え方を展開することが求められている。学校で一番時間をかけているのは、授業である。その質的な向上を、「チーム南高等学校、同附属中学校」で行われることを期待している。

<横浜市立南高等学校 中期学校経営方針>

中期計画期間	平成30年4月～平成33年3月
学校教育目標	(1) 教育理念 知性・自主自立・創造 (2) 教育目標 ○ 学びへの飽くなき探究心を持つ人材の育成 ○ 自ら考え、自ら行動する力の育成 ○ 未来を切り拓く力の育成
中期目標	○ 併設型中高一貫教育校としての特色を生かし、生徒の進路希望を実現するための6年間における教育計画を適切に立案し、生徒の進路希望実現を支援する。 ○ 課題探究及び解決能力を育成し、グローバル社会で活躍できる人材を育成する。 ○ 教員の授業力をより一層向上させ、市民に信頼され、選択される学校づくりを推進する。
目標設定の理由	進学指導重点校としての役割を果たすべく、生徒の学力向上に組織的に取り組み、進路希望の実現を図ることにより、市民からの信頼を勝ち取り、選択される学校へとさらに発展させるため。
学校の特色づくりのための重点目標	
重点取組項目	取組目標
1 教育課程	○ 中高一貫教育校として、教育課程の改善を図る。
2 進路指導	○ 進路指導のさらなる充実のため、教師のスキルアップを図る。
3 学習指導	○ TRY&ACTの特色を生かし、教科横断型の学習による課題探究及び解決能力を育成する。
4 広報活動	○ 進学実績を活用した訴求力のある広報活動の充実
5 学校組織	○ 南高校附属中学校と南高校の、職員組織の円滑な連携・協働の実現
人材育成の取組目標	
○ 比較的経験の浅い教員の、教師としての資質・能力の向上 ○ 指導技術の適切な伝承と、全教員のさらなる指導力の向上 ○ 教育公務員としての高いコンプライアンス意識の向上 ○ 教員としての危機管理能力の向上と事故の未然防止 ○ 保護者との適切な連携と協力・協働による教育力の向上	

中期学校経営方針における 13 の取組分野

取組分野		取組目標
1.	教育目標等の設定・実施	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教職員が誇りをもって働き、生徒が希望をもって学ぶ学校づくりをすすめる。 ○ 質の高い授業と効果的進路指導によって、指向性の明確な進路意欲を育てる。 ○ 自主自立の精神を培い調和のとれた人間を育成する指導を推進する。
2	組織運営 (働き方改革) 教職員研修	<ul style="list-style-type: none"> ○ コンプライアンス意識の向上及び作成文書等の適切な管理をより一層推進する。 ○ 組織として目標を共有し、協働・協力による教育活動を実践する。 ○ 校務分掌組織と所掌業務の見直しを図りつつ、超過勤務の削減に対してさらに意識的に取り組む。
3	教育課程	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中高一貫教育校として、6年間の学習を継続的に行うため、教育課程の研究を一層推進し、授業改善に資する。 ○ TRY&ACTの学習において、生徒の課題探究能力や課題解決能力の育成を図る。 ○ 進学指導重点校として教育課程の改善計画を立案する。
4	教科指導	<ul style="list-style-type: none"> ○ 研修や授業公開、授業参観等を通じた授業改善を実施する。 ○ 授業力の向上による生徒の一層の学習意欲の喚起を促し、望ましい学習習慣を定着させると共に、学力を向上させる。
5	特別活動 部活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒会行事やホームルーム活動を通して、人間関係調整力や責任感、リーダーシップなど、社会で生きる力を育成する。 ○ 発達段階に合わせた適切な部活動や学校行事、特別活動の研究を行う。
6	生徒指導 教育相談 (特別支援)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 挨拶の励行や社会的規範意識の向上を指導する。 ○ 教育相談や研修など、必要に応じて外部機関と連携し、生徒理解を深めると共に、適切な指導を積極的に行う。
7	キャリア教育 進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ○ キャリア教育の観点に立った大学や企業との連携により、将来設計能力を育成する。 ○ 早期の適切な大学受験対策が実行できるよう支援体制を整える。
8	保健指導 環境美化	<ul style="list-style-type: none"> ○ 健康教育、安全教育、人権教育を通じて、生徒が安心して学校生活を送れるよう指導、支援する。
9	学校経理 施設・設備 情報の管理	<ul style="list-style-type: none"> ○ 公正で適切な学校経理を実現する。 ○ 学校情報の管理、誤記載等のない文書作成や成績管理を適切に行う。
10	保護者・地域等 との連携協力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 後援会・同窓会・PTAの協働による教育支援体制の強化を、より一層促進する。 ○ 学校運営協議会による適切な学校支援と、学校評価による学校力の向上を実現する。
11	危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ○ 防犯及び防災対策を充実させ、生徒の安全を守り、食育等を推進し、生徒自身が安全で健康に生活する力を向上させる。
12	学校に関する 情報公開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校広報の質的向上をより一層推進する。 ○ ホームページの適切な運営と管理を行う。 ○ 学校説明会等を活用し、学校に関する情報をわかりやすく広報する。
13	いじめへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教職員が一体となり、深い生徒理解を通じて生徒一人ひとりが安全で、安心して学校生活を送れる環境をつくる。 ○ 生徒の自己有用感を高め、いじめを許さない学校づくりを進める。